

必ずお読みください



VECTORWORKS[®]

A NEMETSCHEK COMPANY

リファレンスガイド

JAPANESE VERSION

CREATED IN PARTNERSHIP WITH A&A CO., LTD.

20

17

v

目次

Vectorworks 2017 サイトプロテクションネットワーク版	3
Vectorworks 2017 サイトプロテクションネットワーク版の概要.....	3
ライセンス管理ソフトウェアをインストールする.....	3
システム要件.....	4
ネットワークプロトコル.....	4
ライセンス管理ソフトウェアをアンインストールする.....	4
クライアントマシンで Vectorworks を起動する.....	4
Vectorworks プログラムを起動する.....	4
サイトプロテクションサーバ設定.....	5
接続エラー.....	6
Vectorworks ライセンスの持ち出しと返却.....	6
ライセンスの持ち出し.....	6
ライセンスの返却.....	7
Vectorworks Site Protection Server.....	7
ライセンス管理ソフトウェアの仕組み.....	7
RLM サーバ.....	8
ISV サーバ.....	8
ライセンス管理ソフトウェアを起動する.....	9
サーバ管理画面.....	9
サーバ構文.....	11
サーバオプションを指定する.....	12
サーバステータス画面.....	14
ISV サーバの各画面.....	16
ISV サーバのステータス.....	16
ライセンス利用状況.....	19
デバッグログを表示する.....	20
ライセンスファイルを再読み込み／再起動する.....	21
オプションを表示および編集する.....	21
サーバの稼働状況を表示する.....	22
RLM Statistics.....	22
ISV Statistics.....	22
ライセンス稼働状況.....	22
サーバ稼働状況ログ.....	24
レポートログ.....	24
デバッグログ.....	28
ポート番号を変更する.....	30
サーバのポート番号を変更する.....	30
管理画面のポート番号を変更する.....	31
ライセンス管理ソフトウェアを終了する.....	31
ISV サーバを終了する.....	31
ISV サーバを再起動する.....	32
RLM サーバを終了する.....	33
RLM サーバを再起動する.....	33
サーバ起動オプション.....	34
サーバのパスワードを設定する.....	37
RLM オプションを制御する.....	37

Windows サービスの設定	38
Windows サービスを登録する	38
Windows サービスの登録を解除する	40
Windows サービスを停止する	40
Windows サービスを再起動する	41
トラブルシューティング	42
起動・認証時の確認事項	42
クライアントまたはサーバの問題	43
状況：ライセンス管理ソフトウェアが起動しない。	43
状況：クライアントソフトウェアが起動しない。	43
状況：クライアントの Vectorworks プログラムは終了しているが、ライセンスカウント が変わらない。	43
状況：製品モジュールやライセンスを追加したが、適切に動作していない。	43
状況：新しいクライアントライセンスが使用できない、またはライセンスカウントに含 まれていない。	44
状況：ファイアウォールを越えてライセンスを適用したい。	44
エラーメッセージ一覧	44
ライセンス管理ソフトウェアのエラー	44
Vectorworks クライアント側のエラー	45

Vectorworks 2017 サイトプロテクションネットワーク版

Vectorworks 2017 サイトプロテクションネットワーク版の概要

Vectorworks 2017 サイトプロテクションネットワーク版では、サーバ/クライアント形式でライセンスを管理し、Vectorworks 製品を使用することができます。サーバマシン上のライセンス管理ソフトウェアで、同時に使用できるクライアントライセンスの数を管理します。このため、使用するすべてのクライアントマシンに Vectorworks サイトプロテクションネットワーク版をインストールしておき、必要な時だけライセンス管理ソフトウェアからライセンスを取得して Vectorworks を起動することができます。また、有効にした場合はライセンスを持ち出すこともできます（教育用バージョンおよび他の一部のケースでは持ち出しが許可されていません）。クライアントでは、Vectorworks プログラムの起動時にクライアントマシン上で許可されたモジュールを選択します。

Vectorworks Site Protection Server（以下、ライセンス管理ソフトウェア）の母体には、米国 Reprise Software, Inc. 製のライセンス管理ソフトウェア、Reprise Licence Manager (RLM) を使用しています。管理設定はサーバ上のブラウザから行います。

ライセンス管理ソフトウェアは以下の機能を持ち、個々の Vectorworks プログラムの起動やネットワーク全体での使用状況などを管理します。

- クライアントマシンがライセンス管理ソフトウェアに接続した時に、ソフトウェアの起動を承認
- ライセンスプール（ライセンス全体）の管理、ライセンスの持ち出しを有効にした場合はライセンスの持ち出しを許可
- ライセンス利用状況の表示
- ログによるライセンス利用状況・接続情報の出力
- ユーザ権限・ライセンス持ち出し可能モジュール・持ち出し上限などを管理

ライセンス管理者以外のユーザは、クライアントマシンで Vectorworks を起動するに進んで、サイトプロテクション機能を備えた Vectorworks プログラムの使用に関する情報を参照してください。

~~~~~  
ライセンス管理ソフトウェアをインストールする  
クライアントマシンで Vectorworks を起動する  
Vectorworks Site Protection Server  
トラブルシューティング

## ライセンス管理ソフトウェアをインストールする

インストールと運用には、クライアントマシンとサーバマシンの両方で管理者（Administrator）権限のあるユーザアカウントが必要です。サーバとクライアントに同じマシンを使用したり、ライセンス管理ソフトウェアを仮想マシンで使用したりしないでください。インストーラには、インストールシステム要件やインストールに関する既知の問題が一覧表示されています。インストールを円滑に行うため、事前にシステム要件を確認してください。

クライアントマシンでは、Vectorworks インストールプログラムを使用して、Vectorworks シリーズ全体のプログラムと、ライセンスおよびサーバの指示に基づいてアクセスを許可する製品を決定できる機能をインストールします。

サーバマシンでは、専用のインストールプログラムを使用して、ライセンス管理ソフトウェアに必要なコンポーネントと、ドングル（プロテクトキー）に必要なドライバソフトウェアをインストールします。インストールにはポート番号が必要です（デフォルトで割り当てられているポート番号は 5053）。インストールプロセスには、ライセンス管理ソフトウェアを Windows サービス（Windows）またはデーモン（Mac）としてインストールするオプションが含まれています。このオプションでは、サーバソフトウェアを自動的に起動してバックグラウンドプロセスとして実行できるため、適用することを推奨します。Windows では、通信エラーを避けるため、ライセンス管理ソフトウェアを Windows ファイアウォールの例外リストに追加することも推奨します。

ドングルのドライバソフトウェアに関する詳細は、日本セーフネット株式会社のホームページ [safenet-inc.com](http://safenet-inc.com) をご確認ください。

## システム要件

クライアントマシンについては、Vectorworks 製品の要件を満たすコンピュータにソフトウェアをインストールする必要があります。

サーバマシンのシステム要件は、クライアントマシンほど厳しくありません。Windows 7以降または Mac OS X 10.7.5以降で実行でき、ネットワークに接続されているマシンであれば、ライセンス管理ソフトウェアを稼働させるのに十分です。

## ネットワークプロトコル

ライセンス管理ソフトウェアとクライアントの Vectorworks 製品は、動作環境が異なります。サーバマシンの IP アドレスは、原則的には固定してください。ただし、同じサブネット内であれば、サーバマシンの IP アドレスを固定しなくても、IP アドレスの自動検知機能により接続できます。ライセンスの持ち出しを許可する時は、サーバマシンの固定 IP アドレスを使用してください。サーバの IP アドレスを自動割り当てにすると、クライアントが持ち出したライセンスを返却できないことがあります。

## ライセンス管理ソフトウェアをアンインストールする

Windows では、コントロールパネルを使用してソフトウェアをアンインストールします。Mac では、ライセンス管理ソフトウェアのフォルダ内にある Uninstall ファイルをダブルクリックし、ターミナルアプリケーションでシステムのパスワードを入力します。

## クライアントマシンで Vectorworks を起動する

Vectorworks プログラムを起動すると、ライセンス管理ソフトウェアと通信します。サーバマシンへのネットワーク接続を確保すると共に、サーバマシンでサーバソフトウェアを実行している必要があります。

ソフトウェアライセンスを持ち出している場合、期間内はネットワーク接続は不要です。

## Vectorworks プログラムを起動する

### 1 Vectorworks プログラムを起動します。

ログイン設定ダイアログボックスが開きます。サーバ接続オプションは、システム管理者がすでに設定している場合があります。これらの設定は変更しないでください。

クリックすると、パラメータの表示/非表示を切り替えられます。

| パラメータ    | 説明                                                                                                                                   |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 接続       |                                                                                                                                      |
| サーバを自動検出 | ライセンス管理ソフトウェアに自動的に接続します。サーバマシンのポート番号フィールドはグレイアウトされています。環境によりサーバの自動検出に問題がある場合も想定し、通常はこのオプションの選択を解除したまま、 <b>プライマリサーバ</b> にサーバ情報を入力します。 |
| サーバ設定    | サーバ設定ダイアログボックスが開き、サイトプロテクションに利用可能なサーバを管理できます ( <a href="#">サイトプロテクションサーバ設定</a> を参照)。                                                 |
| プライマリサーバ | <b>サーバを自動検出</b> にチェックを入れていない場合は、サーバの IP アドレスとポート番号を入力します。ポート番号は、RLM サーバのポート番号と同じ番号に設定します。デフォルトは 5053 です。                             |
| モジュール    | (Vectorworks 製品の) 必要なモジュールや使用を許可されているモジュールを選択します。                                                                                    |

| パラメータ               | 説明                                                                                                                                                                                            |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| サードパーティ             | サードパーティモジュールダイアログボックスが開き、サードパーティから提供されたモジュール、サーバのライセンスファイルに存在するモジュール、使用を許可されているモジュールを選択できます。                                                                                                  |
| 持ち出し                | 許可されている場合は、指定した日数にわたり、その期間はサーバに接続することなく、選択したモジュールのライセンスを持ち出せます。持ち出し期間の最大日数は30日です。                                                                                                             |
| 返却                  | 持ち出したライセンスは期限前に返却できます。 <b>返却</b> をクリックしてサーバに接続し、持ち出したライセンスを返却します。<br>持ち出し期間は自動的に失効します。持ち出したソフトウェアを期限前に返却する場合は、 <b>返却</b> をクリックするだけで済みます。持ち出し期間が終了すると、クライアントのライセンスは自動的に解放され、ソフトウェアを起動できなくなります。 |
| 持ち出しライセンスの有効期限：__日間 | ソフトウェアのライセンスを持ち出す日数を、30日間を上限に入力します。ライセンスは持ち出し期間の最終日の深夜0時に自動的に解放され、ソフトウェアは起動できなくなります。                                                                                                          |
| 情報                  | ソフトウェアのライセンスが持ち出されている間は、持ち出し中のモジュールと残りの持ち出し期間（日数）が表示されます。                                                                                                                                     |
| 起動時に表示しない           | チェックを入れると、起動時にログイン設定ダイアログボックスが表示されなくなります。Vectorworks の環境設定で表示するよう再設定できます。                                                                                                                     |

## 2 モジュールリストで、起動させたいモジュールを選択します。

モジュールを複数選択することはできません。

モジュールを選択してログインした後は、Vectorworks プログラムを終了して再度ログインしない限り、別のモジュールに変更できません。

ライセンスを持ち出している最中は、モジュールの切り替えは出来ません。持ち出したライセンスを返却してから、モジュールを変更してください。

Vectorworks の実行中に使用できる作業画面は、選択したモジュールによって異なります。

## 3 ログインをクリックします。Vectorworks アプリケーションが正常にサーバマシンと通信して、ライセンス管理ソフトウェアが起動を許可すると、Vectorworks プログラムが起動します。

ライセンスを取得できなかった場合には、対象のモジュール名と共にダイアログが表示されます。

Vectorworks アプリケーションの実行中は、Vectorworks の環境設定ダイアログボックスのその他タブで**ログイン設定**ボタンをクリックして、ログイン設定ダイアログボックスにアクセスできます。現在接続しているサーバの IP アドレスとポート番号を表示するには、**接続**をクリックします。**起動時に表示しない**を設定しており、ログイン設定ダイアログボックスをもう一度起動時に表示させたい場合も、この操作でログイン設定ダイアログボックスの設定を変更して表示させることができます。

## サイトプロテクションサーバ設定

サーバ設定ダイアログボックスには、接続可能なサーバが一覧表示されます。サーバ接続は通常、システム管理者が設定します。

使用可能なサーバとポート番号は接続順に一覧表示されます。プライマリサーバがダウンしているか、モジュールのチェックアウトを許可しない場合は、リスト内の次のサーバに接続されます。

ライセンス管理ソフトウェアを管理するには：

### 1 ログイン設定ダイアログボックスで**サーバ設定**をクリックします。

サーバ設定ダイアログボックスが開きます。

クリックすると、パラメータの表示／非表示を切り替えられます。

| パラメータ              | 説明                                           |
|--------------------|----------------------------------------------|
| サーバの IP アドレスとポート番号 | サーバの IP アドレスとポート番号を指定します。                    |
| サーバリスト             | 使用可能なサーバを、優先順位に従って一覧表示します。                   |
| 追加                 | 現在入力しているサーバ情報を、使用可能なサーバのリストに追加します。           |
| 削除                 | 現在選択しているサーバを、サーバリストから削除します。プライマリサーバは削除できません。 |
| 上へ／下へ              | 選択したサーバをリスト内で上または下に移動し、リストの優先順位を変更します。       |

2 **OK** をクリックして、ログイン設定ダイアログボックスに戻ります。

ネットワーク上のサーバを確認する時間は、LoginDialog.xml ファイルの <AutoFindMaxTime> パラメータで編集できます。デフォルト値は 1 秒です。

## 接続エラー

Vectorworks プログラムは、ライセンスが持ち出されていない限り、定期的にライセンス管理ソフトウェアと通信しています。接続は数十秒ごとに検証されます。

一時的なネットワークの問題によってサーバへの接続が切断されると、ダイアログが表示されます。**再試行**をクリックして再接続を試みてください。再接続されると、作業を続けることができます。再接続できない場合は、**保存して終了**をクリックします。保存されていないすべての作業ファイルが保存され、Vectorworks プログラムが終了します。

予期していなかった接続問題の原因を調査するか、システム管理者に連絡して、サーバ接続の復旧支援を受けてください。管理者は、ライセンス管理ソフトウェアの稼働状況を確認できます。

~~~~~  
Vectorworks ライセンスの持ち出しと返却
エラーメッセージ一覧

Vectorworks ライセンスの持ち出しと返却

ライセンスの持ち出し

ライセンスの持ち出しを有効にしている場合、持ち出し期間中はネットワークに接続しなくても Vectorworks プログラムを使用できます。出張時など、サーバに接続できない場合でも Vectorworks 製品を使用できます。ライセンス管理ソフトウェアは、持ち出したライセンス数と経過した持ち出し時間を管理／記録しています。

クライアントマシンに複数のバージョンの Vectorworks プログラムがインストールされている場合は、最新のバージョンのライセンスを持ち出してください。以前のバージョンのライセンスを持ち出した後に、最新のバージョンを持ち出そうとすると、エラーが起こります。

1 Vectorworks プログラムを起動します。

ログイン設定ダイアログボックスが開き、ライセンスを持ち出せます。

Vectorworks の起動時にログイン設定ウインドウを表示しないよう設定している場合は、Vectorworks の環境設定ダイアログボックスのその他タブでログイン設定をクリックして、Vectorworks プログラムを再起動します。

2 **持ち出しライセンスの有効期限**：__ 日間に持ち出したい日数を入力して、**持ち出し**をクリックします。**返却**ボタンが使用できるようになります。

持ち出し期間は最大 30 日です。

許可されている期間より長くライセンスを持ち出そうとすると、ダイアログが表示されます。持ち出し可能な期間内で設定してください。制限されているモジュールのライセンスを持ち出そうとすると、対象のモジュール名と共にダイアログが表示されます。使用を許可されているモジュールを選択してください。

- 3 **情報** ボタンをクリックすると、持ち出し中のライセンスの期限および持ち出し中のモジュールに関する情報が表示されます。
- 4 **OK** をクリックして、ログイン設定ダイアログボックスに戻ります。
- 5 **OK** をクリックして、Vectorworks プログラムを起動します。

ライセンスの返却

設定した期間にわたってライセンスを持ち出す場合、返却する必要はありません。設定した持ち出し日数が経過すると、持ち出したライセンスは自動的に返却されます。ライセンスを期限前に返却するには、Vectorworks プログラムを起動して、ライセンス管理ソフトウェアに接続します。

- 1 Vectorworks プログラムを起動します。

ログイン設定ダイアログボックスが開き、ライセンスを返却できます。

Vectorworks の起動時にログイン設定ウインドウを表示しないよう設定している場合は、Vectorworks の環境設定ダイアログボックスのその他タブでログイン設定をクリックして、Vectorworks プログラムを再起動します。

- 2 **返却** ボタンをクリックします。

返却が終了します。ダイアログボックスの**返却** ボタンがグレイアウトし、代わりに**持ち出し** ボタンが有効になります。同時に、ライセンス管理ソフトウェア側の利用可能なライセンス数が返却された数だけ増加します。

* ライセンス持ち出し中にクライアントマシンが破損するなど、サーバと接続できなくなった場合には、持ち出したライセンスを返却できません。設定した持ち出し日数が経過するとライセンスは自動で返却されます。

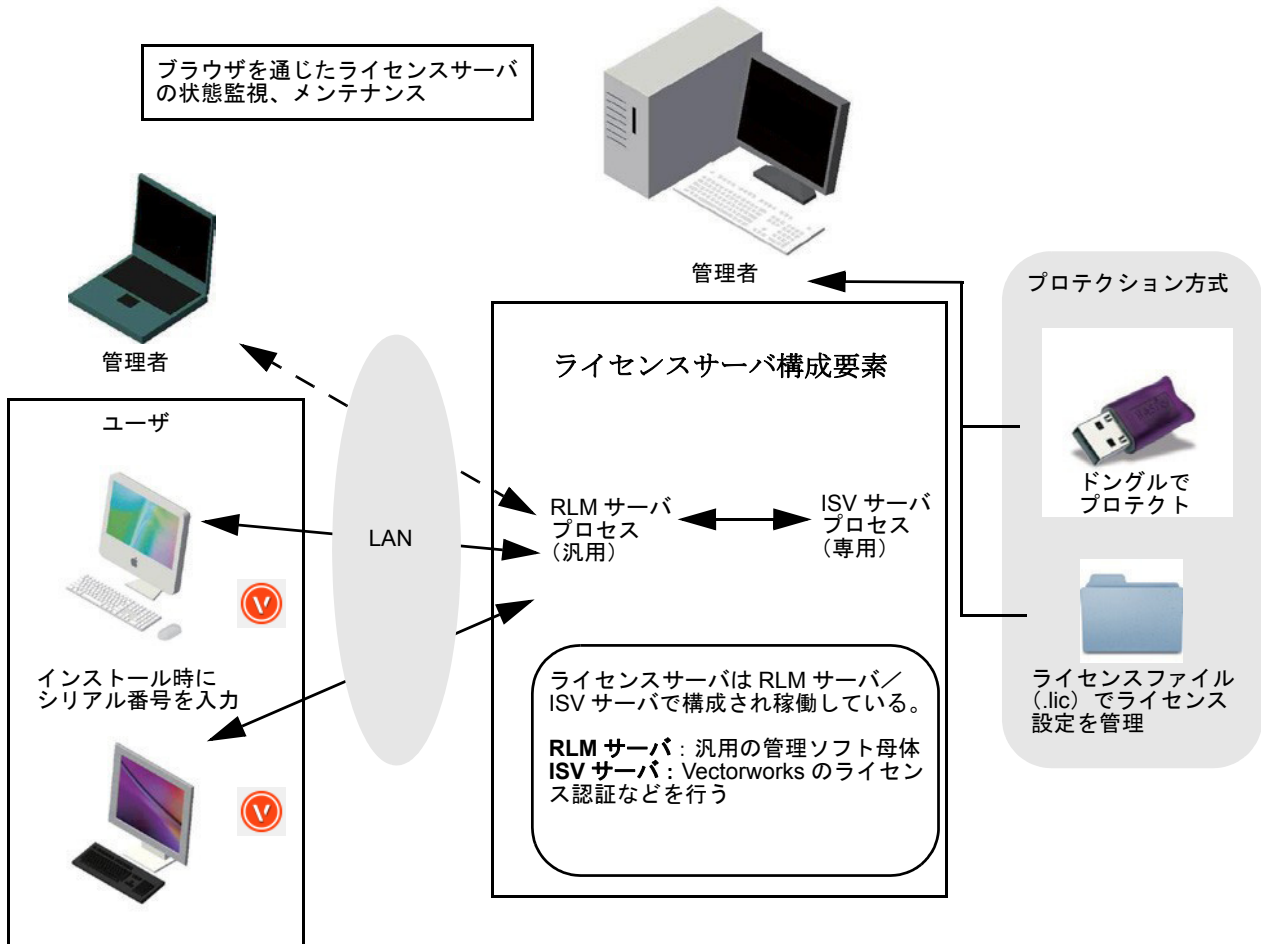
~~~~~  
クライアントマシンで Vectorworks を起動する

## Vectorworks Site Protection Server

### ライセンス管理ソフトウェアの仕組み

ライセンス管理ソフトウェアは、Reprise License Manager (RLM) サーバと Independent Software Vendor (ISV) サーバの2つで構成されます。これらのサーバは、TCP/IP で通信して連携します。





## RLM サーバ

RLM サーバは、米国のライセンス管理ソフトウェアベンダ Reprise Software, Inc, が開発したサーバ管理プログラムです。ライセンス管理ソフトウェアの中核機能として、以下のネットワーク管理タスクを行います。

- ISV サーバと UDP ポート（ポート番号はランダム）で通信を行い、連携して動作しています。
- Vectorworks クライアントと TCP/IP とポート（5053）で起動確認のための通信を行っています。
- TCP/IP ポート（5054）を通じてブラウザと通信し、ライセンス管理ソフトウェアの管理情報を表示します。

RLM サーバはさまざまなオプション機能を持っていますが、Vectorworks サイトプロテクションネットワーク版では一部を除き使用しません。

## ISV サーバ

Vectorworks クライアントのライセンス管理を行っています。ライセンスの利用状況の確認、ログ管理、その他オプション機能を使用することができます。ISV サーバは Vectorworks, Inc. による専用のサーバで、さまざまな画面で「vektorwrx」と表されます。

~~~~~

ライセンス管理ソフトウェアを起動する
 サーバ管理画面
 サーバ構文
 サーバオプションを指定する
 サーバステータス画面
 ISV サーバの各画面
 サーバの稼働状況を表示する

サーバ稼働状況ログ
ポート番号を変更する
ライセンス管理ソフトウェアを終了する
サーバ起動オプション
サーバのパスワードを設定する
RLM オプションを制御する
Windows サービスの設定
トラブルシューティング

ライセンス管理ソフトウェアを起動する

ライセンス管理ソフトウェアを使用するマシンには、プロテクトキー（ dongle ）が必要です。通常は、dongle をサーバマシンの USB ポートに挿入する前に、ライセンス管理ソフトウェアを起動している場合は一度終了し、dongle 装着後に dongle が点灯することを確認します。

ライセンス管理ソフトウェアを Windows サービス（Windows）またはデーモン（Mac）としてインストールした場合、マシンを起動すると、ライセンス管理ソフトウェアは自動的に起動して実行し続けます。自動的に起動しない場合は、rlm.exe（Windows）または rlm（Mac）を起動します（[RLM サーバを再起動する](#)を参照）。

Windows では、サーバソフトウェアを（Windows サービスではなく）スタンドアロンで起動すると、コマンドプロンプトウィンドウが開いたままになりますが、最小化できます。

~~~~~  
サーバ管理画面

## サーバ管理画面

管理機能にアクセスして、さまざまなライセンス管理業務を行うには、サーバマシンのブラウザを使用します。

Reprise ソフトウェアには多くのオプションが含まれています。複数の場所から複数のオプションにアクセスできます。オプションの中には、Vectorworks サイトプロテクションネットワーク版でまったく使用されていないものもあります。

さまざまなサーバ機能へのアクセスは、パスワードファイルで制御できます。[サーバのパスワードを設定する](#)を参照してください。

ライセンス管理画面（「Reprise License Server Administration」ウィンドウ）を開くには：

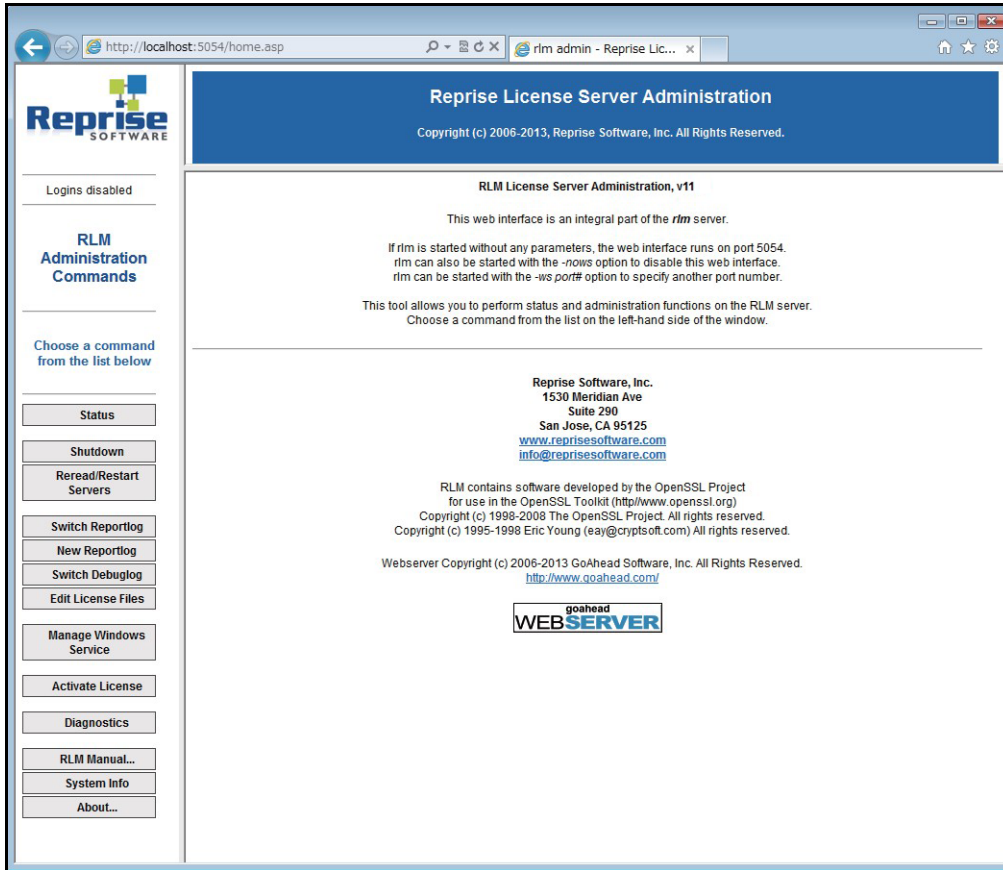
- 1 ライセンス管理ソフトウェアが起動しているマシンでブラウザウィンドウを開き、アドレスに [localhost:5054](http://localhost:5054) と入力して確定します。

サーバ機以外のマシンから管理画面を開くには、以下のように URL として IP アドレス等を指定することで操作できます。

http://サーバマシンの IP アドレス : ポート番号

例 : http://192.168.1.1:5054

- 2 管理画面が表示されます。



管理画面の左ペインの各ボタンで、ライセンス管理ソフトウェアの各機能を使用できます。以下では、主要機能の概要を詳細な説明へのリンクと共に示します。

| ボタン                                      | 操作内容                                                                                                                                                                                               |
|------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Status (ステータス)                           | RLM サーバのステータスが表示され、重要な ISV サーバ操作の多くにアクセスできます。詳細は <a href="#">サーバステータス画面</a> を参照してください。                                                                                                             |
| Shutdown (シャットダウン)                       | Shutdown License Server 画面が表示され、ISV サーバを終了できます ( <a href="#">ISV サーバを終了する</a> を参照)。<br>この操作はステータス画面の ISV Servers から行えます。<br><a href="#">サーバ起動オプション</a> で rlmshutdown コマンドを無効にしている場合、このボタンは表示されません。 |
| Reread / Restart Servers (リリード/リスタートサーバ) | Reread / Restart Servers 画面が表示され、ライセンスファイルを更新または置き換えられます ( <a href="#">ISV サーバを再起動する</a> 参照)。<br>この操作はステータス画面の ISV Servers から行えます。                                                                 |
| Switch Reportlog (スイッチレポートログ)            | 指定した ISV サーバのレポートログを閉じ、指定した名前の新しいログに書き込み先を変更します。詳細は <a href="#">別のレポートログファイルに切り替える</a> を参照してください。                                                                                                  |
| New Reportlog (ニューレポートログ)                | 指定した ISV サーバ用に、指定した名前での新しいレポートログを作成します。詳細は <a href="#">新規レポートログを作成する</a> を参照してください。                                                                                                                |
| Switch Debuglog (スイッチデバッグログ)             | デバッグ情報の記述を開始します。詳細は <a href="#">別のデバッグログファイルに切り替える</a> を参照してください。                                                                                                                                  |

| ボタン                                                     | 操作内容                                                                                                  |
|---------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Edit License Files (エディットライセンスファイル)                     | ライセンスファイルを編集できます。詳細は <a href="#">サーバのポート番号を変更する</a> を参照してください。                                        |
| Manage Windows Service (マネージウィンドウズサービス)<br>(Windows のみ) | Windows サービスに RLM を登録するか、または Windows サービスから RLM を削除します。詳細は <a href="#">Windows サービスの設定</a> を参照してください。 |
| Activate License (アクティベートライセンス)                         | 本ソフトウェアでは使用できません。                                                                                     |
| Diagnostics (ディアグノスティクス)                                | サーバが利用中のホスト ID、 dongle、MAC アドレス、ライセンスファイルなどの情報をテキストに書き出します。                                           |
| RLM Manual... (RLM マニュアル)                               | RLM のオンラインマニュアルを表示します (英語)。<br>マニュアルの一部は、Vectorworks サイトプロテクションネットワーク版に対応していません。                      |
| System Info (システムインフォ)                                  | RLM のシステム情報を表示します。                                                                                    |
| About... (アバウト)                                         | RLM サーバについての情報を表示します (英語)。                                                                            |

~~~~~

サーバ構文
 サーバオプションを指定する
 サーバステータス画面
 ISV サーバの各画面

サーバ構文

サーバコマンドには共通の書式を使用します (半角スペースは記号で表しています)。

コマンド名 1_パラメータ 1_パラメータ 2

- コマンド行はすべて半角で入力し、コマンド名および各パラメータは半角スペースで区切ります (例では半角スペースを「_」記号で表しています)。コマンド名またはパラメータの中にスペースを含めることはできません。
- また、タブや改行記号も含めることはできません。各コマンドは別々の行にする必要があります。
- パラメータに <> & " の文字は使用できません。
- オプションファイルにコメントを追加するには、行を「#」で始めます。
- 一行の最大文字数は 1024 字です。
- 大文字/小文字は区別しません。
- ワイルドカード記号 (*) を使用できます。この記号は任意の文字を指し、たとえば IP アドレスに使われている場合は、0 ~ 255 のすべての値が当てはまります。
- GROUP、HOST_GROUP、INTERNET_GROUP コマンドを使用して、類似のユーザ、コンピュータ、または IP アドレスのグループに、制限や権限を適用できます。ただし、事前にグループを定義する必要があります。複数のグループを作成できるほか、同じコマンドを使用していつでも好きな時に既存のグループにメンバーを追加できます。

サーバコマンドでは、共通のパラメータを使用してクライアント側のユーザを定義します。

コマンド	説明	構文
user (ユーザ)	アカウントの制限または権限を設定するユーザアカウント名を指定します。	USER_ ユーザ名 例 : USER_tom
host (ホスト)	アカウントの制限または権限を設定するコンピュータ名を指定します。Mac では、「システム環境設定」>「共有」を選択し、「コンピュータ名」の「編集」をクリックすると表示される「ローカルホスト名」を使用します。Windows では「コンピュータ名」を使用します。	HOST_ ホスト名 例 : HOST_pc10196
internet (インターネット)	アカウントの制限または権限を設定する IP アドレスを指定します。	INTERNET_IP アドレス 例 : Internet_172.67.94.13 Internet_172.16.*
group (グループ)	複数ユーザのグループを定義します。	GROUP_ グループ名 _ ユーザ名 1_ ユーザ名 2 例 : GROUP_engineers_tom_sarah_franz GROUP_engineers_paul (paul を既存のエンジニアグループに追加します) GROUP_architects_laura_cheng_juan_jimenez
host_group (ホスト__グループ)	複数のコンピュータ名のグループを定義します。	HOST_GROUP_ ホストグループ名 _ ホスト名 1_ ホスト名 2 例 : HOST_GROUP_designers_pc10196_pc10567
internet_group (インターネット__グループ)	複数の IP アドレスのグループを定義します。	INTERNET_GROUP_ インターネットグループ名 _ IP アドレス 1_ IP アドレス 2 例 : INTERNET_GROUP_drafting_1.1.1.1_2.2.*.*_3.3.3.3

~~~~~

サーバオプションを指定する  
サーバステータス画面  
サーバ管理画面

## サーバオプションを指定する

システム管理者は、モジュールおよびライセンスされたユーザのオプションを制御できます。たとえば、一部のユーザは Vectorworks の持ち出しが許可されていないか、持ち出せる期間が他のユーザより短い場合があります。管理者は、レポートログおよびデバッグログファイルのオプションを設定することもできます。

ソフトウェアの持ち出しを許可しないユーザが多い場合は、個別に除外するのではなく、**INCLUDEALL\_ROAM** を使用して特定のユーザのみが持ち出せるようにします。

モジュール、ユーザ、またはログファイルのオプションを指定して編集するには：

- 1 管理画面で **Status** をクリックします。  
サーバステータスペインが表示されます。
- 2 ISV Servers の表で、OPTIONS 列の **vektorwrx** をクリックします。

Edit ISV Options 画面が表示されます。

### 3 サーバ構文の構文を使用して、ユーザオプションを指定または編集します。

構文と例では、クライアントまたはクライアントグループの権限を設定するにあたり、ユーザ、ホスト、インターネット、グループ、ホストグループ、インターネットグループの区別なく指定できます。

| コマンド                                                                | 説明                                                                                                            | 構文                                                                                                         |
|---------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| roam_max_days (ローム__マックス__デイズ)                                      | 持ち出しの機能を、特定の日数 (最大 30 日) と特定のモジュールに制限します。                                                                     | ROAM_MAX_DAYS_持ち出し日数_モジュール名<br>例: ROAM_MAX_DAYS_3_architect                                                |
| roam_max_days - (ローム__マックス__デイズ)                                    | 特定のモジュールの持ち出し機能を無効にします (負の数字を使用して持ち出しを防ぎます)。                                                                  | ROAM_MAX_DAYS_-1_モジュール名<br>例: ROAM_MAX_DAYS_-1_landmark                                                    |
| Exclude (エクスクルード)                                                   | 指定したクライアントに対し、モジュールの使用を制限します。                                                                                 | EXCLUDE_モジュール_ユーザ名<br>例: EXCLUDE_landmark_user_sam                                                         |
| Include (インクルード)                                                    | 指定していないすべてのクライアントに対し、モジュールの使用を制限します。                                                                          | INCLUDE_モジュール_グループ名<br>例: INCLUDE_spotlight_group_designers                                                |
| Excludeall_roam (エクスクルードオール__ローム)                                   | 特定のクライアントの持ち出しを制限します。                                                                                         | EXCLUDEALL_ROAM_user_名_姓<br>例: EXCLUDEALL_ROAM_user_susan_rodriguez                                        |
| Includeall_roam (インクルードオール__ローム)                                    | 特定のクライアントの持ち出しを許可します。                                                                                         | INCLUDEALL_ROAM_group_グループ名<br>例: INCLUDEALL_ROAM_group_architects                                         |
| Reserve (リザーブ)                                                      | 重要なクライアントのライセンスを予約します。                                                                                        | RESERVE_ライセンス数_モジュール名_ユーザ_ユーザ名<br>例: RESERVE_1_spotlight_user_elena<br>RESERVE_3_architect_group_engineers |
| Max (マックス)                                                          | クライアント 1 台当たりにチェックアウトするライセンスの最大数を制限します。                                                                       | MAX_ライセンス数_モジュール名_ユーザ_名_姓<br>例: MAX_3_landmark_host_group_designers                                        |
| Debuglog (デバッグログ)                                                   | ISV サーバのデバッグログを作成します。                                                                                         | DEBUGLOG_ファイルパス_ファイル名<br>例: debuglog_Log\dlog.txt                                                          |
| Debuglog+ (デバッグログプラス)                                               | ISV サーバごとに異なるデバッグログを作成し、ログを上書きするのではなく、ログ情報を自動的に追加します。起動オプションとしても指定できます。 <a href="#">サーバ起動オプション</a> を参照してください。 | DEBUGLOG+_ファイルパス_ファイル名<br>例: debuglog+_Log\dlog.txt                                                        |
| Nolog in (ノーログイン)<br>Nolog out (ノーログアウト)<br>Nolog denied (ノーログデナイド) | ライセンスのチェックイン、チェックアウト、または拒否されたライセンスに関する情報をサーバがデバッグログに記録しないように指定します。                                            | NOLOG_種類<br>例: NOLOG_denied                                                                                |

| コマンド               | 説明                             | 構文                                                                                                                           |
|--------------------|--------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Reportlog (レポートログ) | ライセンスの利用状況に関する情報をログファイルに保存します。 | REPORTLOG_ファイルパス ファイル名_種類<br>Windows での例：<br>REPORTLOG_Log\Reportlog.txt_detailed<br>Mac での例：REPORTLOG_Log/Reportlog.txt_std |
| Rotate (ロテート)      | 現在のレポートログを保存して閉じ、新しいログを作成します。  | ROTATE_[daily weekly monthly #days]<br>例：ROTATE_daily                                                                        |

#### 4 Update Options をクリックします。

オプションは、RLM ソフトウェアと同じネットワークライセンスフォルダに置かれている *vektorwrx.opt* ファイルに保存されます。

オプションを削除してデフォルトの状態へ戻したい時は、入力したコマンドを削除した後で Update Options ボタンを押してから、ISV サーバを再起動してください。

~~~~~

サーバステータス画面
サーバ管理画面
レポートログ
デバッグログ
サーバのパスワードを設定する
RLM オプションを制御する

サーバステータス画面

アクセス：管理画面の **Status** をクリックして、ステータス画面にアクセスします。

説明：この画面から、ライセンス管理ソフトウェアでライセンス管理を行う ISV サーバの各種機能にアクセスできます。

The screenshot shows the 'Status' page of the RLM software. On the left, a vertical menu contains buttons for 'Status', 'Shutdown', 'Reread/Restart Servers', 'Switch Reportlog', 'New Reportlog', 'Switch Debuglog', 'Edit License Files', and 'Manage Windows'. An arrow points from the 'Status' button to the main content area. The main content area is divided into three sections: 'RLM version information' (showing software and comm versions, debug log file, and license files), 'RLM server statistics' (a table with columns for Start time, Messages, and Connections), and 'ISV server' (a table listing server details). Buttons for 'EDIT rlm Options' and 'SHOW rlm Debug Log' are also visible.

パラメータ	説明
RLM version information (RLM バージョンインフォメーション)	RLM ソフトウェアとライセンスに関する情報を表示します。
RLM software version (RLM ソフトウェアバージョン)	RLM ソフトウェアのバージョンです。

パラメータ	説明
RLM comm version (RLM コムバージョン)	クライアント - サーバ間の通信のバージョンです。
debug log file (デバッグログファイル)	デバッグログファイル名です。
license files (ライセンスファイル)	ライセンスファイル名です。
RLM Server Statistics (RLM サーバスタティスティクス)	サーバの起動時間やその他の通信情報を表示します。サーバでは、毎日深夜 0 時にすべてのライセンスファイルを再読み込みします。
Since Start / Since Midnight / Recent (シンススタート / シンスマッドナイト / レセント)	各列はそれぞれ、開始時から / 本日 / 30 分前からの起動時間を表しています。長時間起動しているサーバソフトウェアに、各時間の範囲でどのくらいの負荷がかかっているかの目安になります。
Start time (スタートタイム)	各列に対応した時間のスタート時刻を表示します。
Messages (メッセージ)	RLM サーバに通信された TCP メッセージの数を表示します。
Connections (コネクション)	RLM サーバに送信されたコネクションの数を表示します。
EDIT rlmOptions (エディット rlm オプション)	RLM オプションファイルを編集します。 <u>RLM オプションを制御する</u> を参照してください。
SHOW rlm Debug Log (ショウ rlm デバッグログ)	ライセンス管理ソフトウェアの最近の活動を表示します。ここに表示される情報は、ライセンス管理ソフトウェアのコマンドラインウィンドウの情報の中から、主に RLM サーバの情報 (システム関連の情報) を抜粋したものです。
ISV Servers (ISV サーバ)	ライセンス利用状況のデータを示し、ISV サーバを操作し、ISV サーバの簡単なステータスを表示します。ライセンス管理機能にもアクセスできます。ライセンス管理ソフトウェアの各機能は、 <u>ISV サーバの各画面</u> で詳しく説明しています。
Name (ネーム)	「vektorwrx」は、Vectorworks の ISV を指します。Vectorworks 社は RLM ソフトウェアから、独立系ソフトウェアベンダ (ISV) であると見なされます。
port (ポート)	ISV サーバが使用する TCP ポートを表示します。
Running (ランニング)	サーバソフトウェアが実行中かどうかを Yes / No で示します。
Restarts (リスタート)	サーバソフトウェアが再起動された回数を表示します。
Server Status (サーバステータス)	サーバソフトウェアの統計情報やライセンスの状態を表示します。詳細は <u>ISV サーバのステータス</u> を参照してください。
License Usage (ライセンスユース)	クリックすると、現在のライセンス使用状況が表示されます。詳細は <u>ライセンス利用状況</u> を参照してください。
Debug Log (デバッグログ)	Vectorworks サイトプロテクションネットワーク版の最近の活動のログファイルを表示します。ここに表示される情報は、Vectorworks サイトプロテクションネットワーク版のコマンドラインウィンドウの情報を抜粋したもので、主に ISV サーバ (ライセンスを使用または返却するクライアント) に関する統計情報が表示されます。 詳細は <u>デバッグログ</u> を参照してください。
REREAD (リリード)	クリックすると ISV サーバを再起動し、再起動時にライセンスファイルとオプションファイルを再読み込みします (<u>ライセンスファイルを再読み込み / 再起動する</u> を参照)。

パラメータ	説明
OPTIONS (オプション)	クリックすると Edit ISV Options 画面を表示します。詳細は オプションを表示および編集する を参照してください。
TRANSFER (トランスファー)	本ソフトウェアでは使用できません。
SHUTDOWN (シャットダウン)	ISV サーバを終了します。 ライセンス管理ソフトウェアを終了する を参照してください。 サーバ起動オプション で <code>rlmdown command disabled</code> を設定して Windows サービスをインストールしている場合、このボタンは表示されません。

~~~~~  
ISV サーバの各画面

## ISV サーバの各画面

ライセンス管理ソフトウェアのこの領域は、アクセスして使用する頻度が高いため、ボタンごとに説明します。一部の機能は他のセクションでさらに詳しく説明しており、リンクを記載しています。

~~~~~  
ISV サーバのステータス
ライセンス利用状況
デバッグログを表示する
ライセンスファイルを再読み込み／再起動する
オプションを表示および編集する
ライセンス管理ソフトウェアを終了する
サーバ管理画面

ISV サーバのステータス

アクセス：管理画面の **Status** をクリックして、ステータス画面にアクセスします。Server Status 列の **vektorwrx** をクリックします。

説明：この画面では、ISV サーバのステータスを表示します。ライセンスの利用状況とステータスを確認します。

ISV Servers		Name	port	Running	Restarts	Server Status	License Usage	Debug Log	REREAD	OPTIONS	TRANSFER	SHUTDOWN
		vektorwrx	49213	Yes	1	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx



vektorwrx software version	v11
vektorwrx comm version	v1.2
debug log file	._stdout_
report log file	reportlog

vektorwrx Statistics

	Since Start	Since Midnight	Recent
Start Time	07/15 14:20:37	07/16 01:40:54	07/16 15:55:50
Messages	314 (0/sec)	4 (0/sec)	2 (0/sec)
Connections	8 (0/sec)	2 (0/sec)	1 (0/sec)
Checkouts	3 (0/sec)	0 (0/sec)	0 (0/sec)
Denials	0 (0/sec)	0 (0/sec)	0 (0/sec)
License Removals	0 (0/sec)	0 (0/sec)	0 (0/sec)
Current Connections	0		

License pool status

Product	Pool	Ver	Expires	count	soft lim	inuse	res	hostid	timeout	share	transactions	Show License Usage
fundamentals	1	2017	permanent	4	4	0	0		0	None	1	usage...
designer	2	2017	permanent	4	4	0	0		0	None	1	usage...
renderworks	3	2017	permanent	4	4	0	0		0	None	1	usage...
rim_roam	4	1.0	permanent	Uncounted	0	0	0	ANY	0	None	0	usage...

Enter license password to select license results. Only licenses with matching passwords (or with no passwords) will be displayed above.

License Password:

ISV version information

vektorwrx statistics

License pool status

パラメータ	説明
ISV Version Information (ISVバージョンインフォメーション)	ISV サーバの情報を表示します。
vektorwrx software version (vektorwrx ソフトウェアバージョン)	ISV サーバのバージョンです。
vektorwrx comm version (vektorwrx コムバージョン)	クライアント - サーバ間の通信のバージョンです。
debug log file (デバッグログファイル)	デバッグログファイル名です。
report log file (レポートログファイル)	レポートログファイル名です。
vektorwrx Statistics (vektorwrx スタティスティクス)	ライセンス管理ソフトウェアの開始時刻と通信情報を表示します。ライセンス管理ソフトウェアは、毎日深夜 0 時にすべてのライセンスファイルを再読み込みします。詳細は <u>サーバの稼働状況を表示する</u> を参照してください。

パラメータ	説明
Since Start / Since Midnight / Recent (シンススタート/シンスミッドナイト/レセント)	各列はそれぞれ、開始時から/本日/30分前からの起動時間を表しています。長時間起動しているサーバソフトウェアに、各時間の範囲でどのくらいの負荷がかかっているかの目安になります。
Start time (スタートタイム)	各列に対応した時間のスタート時刻を表示します。
Messages (メッセージ)	ISV サーバに通信された TCP メッセージの数を表示します。
Connections (コネクション)	ISV サーバに送信されたコネクションの数を表示します。
Checkouts (チェックアウト)	ライセンスが使用された回数を表示します。
Denials (デナイアル)	ライセンスの使用を拒否した回数を表示します (ISV オプションで設定すると、ライセンスの使用を拒否できます)。
License Removals (ライセンスリムーバル)	ユーザが使用中のライセンスを強制的に Vectorworks サーバソフトウェアに返却させた回数を表示します。
Current Connections (カレントコネクション)	現在接続中のライセンス数を表示します。
License pool status (ライセンスプールステータス)	
Product (プロダクト)	Reprise Software 社の内部で使用するライセンス持ち出し設定ファイル rlm_roam を表示します。
Pool (プール)	プール番号です。
Ver (バージョン)	製品バージョンを表示します。
Expires (エクスパイア)	ライセンスの有効期限を表示します。Permanent は有効期限のないライセンスです。
count (カウント)	サーバで使用可能なライセンス数を表示します。
soft lim (ソフトリミット)	本ソフトウェアでは、ライセンス数と同じ数値を表示します。
inuse (インユース)	現在使用中のライセンス数を表示します。
res (リザーブド)	予約されているライセンス数を表示します。
roam (ローム)	現在持ち出し中のライセンス数を表示します。ライセンスを持ち出ししているクライアントがない場合は、項目が表示されません。
hostid (ホスト ID)	ライセンスが dongle などハードウェア保護されているかを表示します。本ソフトウェアでは、サーバソフトウェア自体が dongle で保護されているため、ANY と表示されます。
share (シェア)	ライセンスを同一ユーザ名・同一マシン名で共有するかを表示します。本ソフトウェアでは、ライセンスの共有機能が無効に設定されているため、None と表示されます。
transactions (トランザクション)	ライセンスがチェックイン/チェックアウトされた回数を表示します。
Show License Usage (ショウライセンスユース)	クリックすると、使用者データを表示します。詳細は ライセンス利用状況 を参照してください。
Licenses Password (ライセンスパスワード)	本ソフトウェアでは使用できません。
Refresh (リフレッシュ)	このページを再読み込みします。
BACK (バック)	前の画面に戻ります。

ISV サーバの各画面

ライセンス利用状況

アクセス：管理画面の **Status** をクリックして、ステータス画面にアクセスします。License Usage 列の **vektorwrx** をクリックします。

説明：この画面で、ライセンスの利用状況を確認します。現在使用されている製品ライセンスや使用中のユーザ、ホスト名でライセンスをフィルタし、条件に合致するものを一覧表示させることができます。

ISV Servers										
Name	port	Running	Restarts	Server Status	License Usage	Debug Log	REREAD	OPTIONS	TRANSFER	SHUTDOWN
vektorwrx	49213	Yes	1	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx



Get License Usage

If the Product/User/Host fields are all blank, then all licenses in use will be displayed.
Data entered in any of these fields will filter the list of licenses returned.
Only licenses with matching passwords (or with no passwords) will be displayed.

ISV:

Product:

User:

Host:

License Password:

パラメータ	説明
ISV	「vektorwrx」を選択すると、Vectorworks サイトプロテクションネットワーク版で利用可能なライセンスの使用状況がわかります。
Product (プロダクト)	fundamentals、architect のように製品名を入力すると、一覧表示させるライセンスを検索できます。
User (ユーザ)	ユーザ1、ユーザ2のようにユーザ名をカンマで区切って入力すると、ライセンスをユーザ別に検索できます。
Host (ホスト)	IP アドレスや localhost など、ホスト名を入力すると、一覧表示させるライセンスを検索できます。
Licesnse Password (ライセンスパスワード)	本ソフトウェアでは使用できません。
GET License Usage (ゲットライセンスユサージ)	選択した検索基準に基づいてライセンス利用状況の統計情報を表示します。
BACK (バック)	前の画面に戻ります。

~~~~~  
 サーバの稼働状況を表示する  
 サーバ稼働状況ログ  
 ISV サーバの各画面

## デバッグログを表示する

**アクセス**：管理画面の **Status** をクリックして、ステータス画面にアクセスします。Debug Log 列の **vektorwrx** をクリックします。

**説明**：ライセンス管理ソフトウェアのコマンドラインウィンドウの情報の中から、ISV サーバに関する最新の情報を 20 行表示します。主にクライアントの Vectorworks が、ライセンスを使用または返却した記録が表示されます。

デバッグログを作成しなければ、データを記録できません。[デバッグログの設定を参照してください](#)。

**Refresh** をクリックして、デバッグログ情報を更新します。**BACK** をクリックして、前の画面に戻ります。

| ISV Servers |       |         |          |               |               |           |           |           |           |           |
|-------------|-------|---------|----------|---------------|---------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| Name        | port  | Running | Restarts | Server Status | License Usage | Debug Log | REREAD    | OPTIONS   | TRANSFER  | SHUTDOWN  |
| vektorwrx   | 49213 | Yes     | 1        | vektorwrx     | vektorwrx     | vektorwrx | vektorwrx | vektorwrx | vektorwrx | vektorwrx |



```

Recent Debug Log Entries

ISV vektorwrx Debug Log, last 20 lines

07/16 14:20 (vektorwrx) RLM License Server Version 11.3 for ISV "vektorwrx"
07/16 14:20 (vektorwrx) Server architecture: x86_m1

Copyright (C) 2006-2013, Reprise Software, Inc. All rights reserved.

RLM contains software developed by the OpenSSL Project
for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org)
Copyright (c) 1998-2008 The OpenSSL Project. All rights reserved.
Copyright (c) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com) All rights reserved.

07/16 14:20 (vektorwrx)
07/16 14:20 (vektorwrx) Server started on PC101301-Mavericks.local (hostid: hasp4=XXXXXXXXXX) for:
07/16 14:20 (vektorwrx) fundamentals designer renderworks rim_roam

07/16 14:20 (vektorwrx)
07/16 14:20 (vektorwrx) License files:
07/16 14:20 (vektorwrx) /Applications/Vectorworks Network License/XXXXXXXXXX.lic
07/16 14:20 (vektorwrx)
07/16 14:27 (vektorwrx) OUT: designer v2017 by XXXXXX@pc101
07/16 14:27 (vektorwrx) OUT: fundamentals v2017 by XXXXXX@pc101
07/16 14:27 (vektorwrx) OUT: renderworks v2017 by XXXXXX@pc101
07/16 17:21 (vektorwrx) IN: (client exit) designer v2017 by XXXXXX@pc101
07/16 17:21 (vektorwrx) IN: (client exit) fundamentals v2017 by XXXXXX@pc101
07/16 17:21 (vektorwrx) IN: (client exit) renderworks v2017 by XXXXXX@pc101
07/16 17:24 (vektorwrx) select() failure: Interrupted system call
07/16 17:24 (vektorwrx) ==== Reread request by signal@local ====
07/16 17:24 (vektorwrx) ==== Reread request by signal@local ====
07/16 01:40 (vektorwrx) ==== Reread request by automatic@midnight ====
  
```

デバッグログが表示されている例では、次の情報が表示されます。

License Files (ライセンスファイル) :

使用中のライセンスファイルのパスと名前を表示します。

OUT: fundamentals v2017 by XXXXXX

クライアントがライセンスの使用を開始した日時を表示します。

IN:(client exit) fundamentals v2017 by XXXXXX

ライセンスが返却された日時を表示します。

~~~~~  
 デバッグログ

ISV サーバの各画面

ライセンスファイルを再読み込み／再起動する

アクセス：管理画面の **Status** をクリックして、ステータス画面にアクセスします。REREAD 列の **vektorwrx** をクリックします。

説明：ISV サーバを再起動すると同様に、ライセンスファイルを再度読み込んで再起動できます。ライセンスファイルを置き換えたり、オプションファイルを読み込んだりすることもできます。

ISV Servers											
Name	port	Running	Restarts	Server Status	License Usage	Debug Log	REREAD	OPTIONS	TRANSFER	SHUTDOWN	
vektorwrx	49213	Yes	1	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	



Reread/Restart Servers

If /ISV is specified as "all" or blank, all ISV servers will reread licenses

ISV: vektorwrx ▼

~~~~~

ISV サーバの各画面

## オプションを表示および編集する

**アクセス**：管理画面の **Status** をクリックして、ステータス画面にアクセスします。OPTIONS 列の **vektorwrx** をクリックします。

**説明**：この画面で、ISV サーバのオプションを制御します。ライセンス設定を指定して、レポートログの出力を制御できます。サーバオプションを指定するおよびレポートログの設定を参照してください。

| ISV Servers |       |         |          |               |               |           |           |           |           |           |  |
|-------------|-------|---------|----------|---------------|---------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|--|
| Name        | port  | Running | Restarts | Server Status | License Usage | Debug Log | REREAD    | OPTIONS   | TRANSFER  | SHUTDOWN  |  |
| vektorwrx   | 49213 | Yes     | 1        | vektorwrx     | vektorwrx     | vektorwrx | vektorwrx | vektorwrx | vektorwrx | vektorwrx |  |



**ISV "vektorwrx" has no options file, creating it now**

**ISV vektorwrx Options**

~~~~~

ISV サーバの各画面

サーバの稼働状況を表示する

ライセンス管理ソフトウェアの稼働状況が、複数の表に一覧表示されます。RLM statistics（ウェブサーバの統計）、ISV statistics（vektorwrx の統計）、現在のライセンス利用状況の統計を確認できます。

RLM Statistics

アクセス：管理画面の **Status** をクリックします。RLM サーバ情報とサーバ統計情報が表示されます。

説明：RLM サーバ全体の稼働時間と通信状態が表示されます。

ISV Statistics

アクセス：管理画面の **Status** をクリックして、ステータス画面にアクセスします。Server Status 列の **vektorwrx** をクリックします。

説明：vektorwrx の統計には、ISV サーバの負荷情報が表示されます。詳細は [ISV サーバのステータス](#) を参照してください。

ライセンス稼働状況

アクセス：管理画面の **Status** をクリックして、ステータス画面にアクセスします。License Usage 列の **vektorwrx** をクリックします。

あるいは、管理画面の **Status** をクリックして、ステータス画面にアクセスします。Server Status 列の **vektorwrx** をクリックし、License Pool 領域で、Show License Usage 列の **Usage** をクリックします。

説明：[ライセンス利用状況](#) で説明しているように、使用中のライセンスが表示されます。

ISV Servers											
Name	port	Running	Restarts	Server Status	License Usage	Debug Log	REREAD	OPTIONS	TRANSFER	SHUTDOWN	
vektorwx	49213	Yes	1	vektorwx	vektorwx	vektorwx	vektorwx	vektorwx	vektorwx	vektorwx	vektorwx



Get License Usage

If the Product/User/Host fields are all blank, then all licenses in use will be displayed.
Data entered in any of these fields will filter the list of licenses returned.
Only licenses with matching passwords (or with no passwords) will be displayed.

ISV:

Product:

User:

Host:

License Password:

Reprise License Server Administration												
License status for ISV vektorwx												
Product	Pool	Ver	user	host	PID	req ver	# lic	# res	Out time	In (hold) time	Click to REMOVE	
rim_room	1	1.0	vektorwx	vektorwx	1893	1.0	1	0	01/23 16:39	None	<input type="button" value="Remove"/>	
rim_room	1	1.0	vektorwx	vektorwx	1893	1.0	1	0	01/23 16:39	None	<input type="button" value="Remove"/>	
rim_room	1	1.0	vektorwx	vektorwx	1893	1.0	1	0	01/23 16:39	None	<input type="button" value="Remove"/>	
rim_room	1	1.0	vektorwx	vektorwx	1893	1.0	1	0	01/23 16:39	None	<input type="button" value="Remove"/>	
fundamentals	2	2017	vektorwx	vektorwx	0	2017	1	0	01/22 13:30	01/24 00:00	<input type="button" value="Remove"/>	
fundamentals	2	2017	vektorwx	vektorwx	4888	2017	1	0	01/23 16:11	None	<input type="button" value="Remove"/>	
fundamentals	2	2017	vektorwx	vektorwx	1893	2017	1	0	01/23 16:39	None	<input type="button" value="Remove"/>	
spotlight	3	2017	vektorwx	vektorwx	0	2017	1	0	01/22 13:30	01/24 00:00	<input type="button" value="Remove"/>	
spotlight	3	2017	vektorwx	vektorwx	4888	2017	1	0	01/23 16:11	None	<input type="button" value="Remove"/>	
spotlight	3	2017	vektorwx	vektorwx	1893	2017	1	0	01/23 16:39	None	<input type="button" value="Remove"/>	
architect	4	2017	vektorwx	vektorwx	0	2017	1	0	01/22 13:30	01/24 00:00	<input type="button" value="Remove"/>	
architect	4	2017	vektorwx	vektorwx	4888	2017	1	0	01/23 16:11	None	<input type="button" value="Remove"/>	
architect	4	2017	vektorwx	vektorwx	1893	2017	1	0	01/23 16:39	None	<input type="button" value="Remove"/>	
landmark	5	2017	vektorwx	vektorwx	0	2017	1	0	01/22 13:30	01/24 00:00	<input type="button" value="Remove"/>	
landmark	5	2017	vektorwx	vektorwx	4888	2017	1	0	01/23 16:11	None	<input type="button" value="Remove"/>	
landmark	5	2017	vektorwx	vektorwx	1893	2017	1	0	01/23 16:39	None	<input type="button" value="Remove"/>	
renderworks	6	2017	vektorwx	vektorwx	0	2017	1	0	01/22 13:30	01/24 00:00	<input type="button" value="Remove"/>	
renderworks	6	2017	vektorwx	vektorwx	4888	2017	1	0	01/23 16:11	None	<input type="button" value="Remove"/>	
renderworks	6	2017	vektorwx	vektorwx	1893	2017	1	0	01/23 16:39	None	<input type="button" value="Remove"/>	

パラメータ	説明
Product (プロダクト)	モジュール名です。
Pool (プール)	プール番号です。
Ver (バージョン)	製品バージョンです。
User (ユーザ)	ユーザ名を表示します。
host (ホスト)	ライセンスを使用しているホスト名を表示します。
PID (プロダクト ID)	プロダクト ID を表示します。
req ver (リクエストバージョン)	クライアントが要求した Vectorworks のバージョンです。
# lic (# ライセンス)	各ユーザが使用しているライセンスの数を表示します。

パラメータ	説明
# res (# リザーブド)	予約されたライセンスの数を表示します。
Out time (アウトタイム)	ライセンスの使用開始日時を表示します。
In (hold) time (イン(ホールド)タイム)	(ライセンスを持ち出している場合に) ライセンスの返却予定日を表示します。
Click to REMOVE (クリックトゥリムーブ)	<p>使用中のライセンスをライセンス管理ソフトウェアに返却します。</p> <p>この操作はネットワーク接続しているライセンスに対して有効です。持ち出し中のライセンスに対しては動作しません。</p> <p>サーバ起動オプションで <code>rlmdown command disabled</code> を設定して Windows サービスをインストールしている場合、このボタンは表示されません。</p>

~~~~~

サーバ管理画面

## サーバ稼働状況ログ

レポートログファイルは、サーバで使用できるライセンス関連の統計データを含むテキストファイルです。モジュールごとの利用状況など、デバッグログより詳しい履歴情報が含まれています。利用統計を取るのに有効です。

デバッグログは、サーバコマンドの全データをファイルに書き出します。デバッグログには RLM サーバのログ (システム関連のログデータ) と ISV サーバのログ (ライセンス関連のログデータ) がそれぞれ含まれます。サーバの不具合に関する情報も含まれています。

デバッグログの OUT はクライアントがライセンスを使用中であることを示し、IN はクライアントソフトウェアが終了して、ライセンスがサーバに返却されたことを示します。

~~~~~

レポートログ
デバッグログ

レポートログ

サーバの統計情報を取得するには、レポートログを設定する必要があります。レポートログには任意の名前を付けて、サーバマシンの任意の場所に置くことができます。ただし、事前にフォルダを作成しておく必要があります。ログの種類を、`detailed`、`standard (std)`、または `small` に設定できます。種類を指定しない場合は、`standard` ログが作成されます。`standard` では、一般的なクライアントのライセンス情報が一覧表示されます。`small` には最小限のライセンス接続情報のみが含まれ、`detailed` にはクライアントの OS や日付などの詳細が含まれます。ログを Log File Converter (ログファイルコンバータ) と共に使用して、さらなるデータ解析を行うには、`std` または `detailed` を選択します。

レポートログの設定

レポートログを設定するには：

- 1 サーバマシン (できればライセンス管理ソフトウェアのフォルダ内) にレポートログ用のフォルダを作成します。コマンドで指定するフォルダは、事前に用意しておく必要があります。

レポートログのファイルパスを指定していない場合は、RLM のインストールフォルダ内に作成されます。

- 2 管理画面の **Status** をクリックします。OPTIONS 列の **vektorwrx** をクリックします。

Edit ISV Options 画面が表示されます。

ISV Servers											
Name	port	Running	Restarts	Server Status	License Usage	Debug Log	REREAD	OPTIONS	TRANSFER	SHUTDOWN	
vektorwrx	49213	Yes	1	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx	vektorwrx



Edit ISV Options

This form edits the ISV options. When you are finished, select "Update Options" if you want to save your changes on the server. Select "Cancel" if you want to discard your changes. If you want the server to use these options immediately, select "REREAD/RESTART" for this ISV on the status page.
NOTE: The options file is NOT LOCKED while you are doing this edit, so if more than one user updates the file, one set of changes will be lost.

ISV "vektorwrx" has no options file, creating it now

ISV vektorwrx Options

3 ISV vektorwrx Options フィールドに以下のコマンドを入力します。

コマンド	説明	構文
REPORTLOG (レポートログ)	レポートログ (small、std、または detailed) の場所、ファイル名、形式、種類を設定します。ファイルパスは相対パスでも絶対パスでも指定できます。相対パスを使用する場合、現在のフォルダはライセンス管理ソフトウェアのインストールフォルダです。	REPORTLOG_ ファイルパス ファイル名 _ 出力の種類 Windows での例： REPORTLOG_Log\Reportlog.txt_detailed Mac での例：REPORTLOG_Log/Reportlog.txt_std

4 **Update Options** をクリックします。

5 vektorwrx options file written. というメッセージが表示されます。**Back to Status** ボタンをクリックして、ステータス画面に戻ります。

6 **Reread / Restart Servers** をクリックして、ISV サーバを再起動します。ISV サーバを再起動すると、指定した場所にログファイルが作成されます。

RLM サーバを再起動すると、既存のログファイルが上書きされます。RLM サーバを再起動する前に、ログファイルのバックアップを作成します。

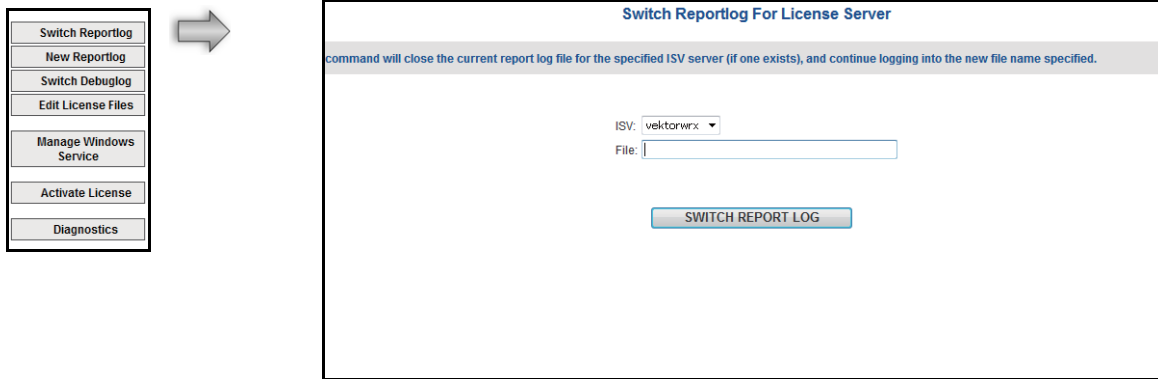
RLM オプションを設定して、レポートログにライセンスのチェックイン、チェックアウト、拒否を記録するかどうかを制御できます。[RLM オプションを制御する](#)を参照してください。

別のレポートログファイルに切り替える

使用中のレポートログから、別のログファイルを指定して切り替えることができます。レポートログを切り替えるには、新しいレポートログを事前に用意しておく必要があります。

1 管理画面の **Switch Reportlog** をクリックします。

Switch Reportlog For License Server 画面が表示されます。



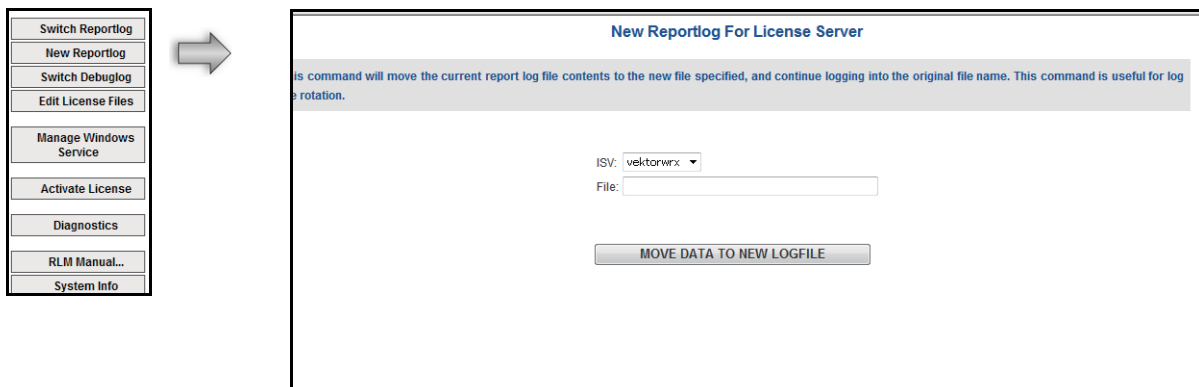
- 2 ISV リストで vektorwrx を選択します。
- 3 File に、ログが置かれているファイルパスをファイル名を含めて入力します。
- 4 SWITCH REPORT LOG ボタンをクリックします。
レポートログが別のファイルに切り替わります。

新規レポートログを作成する

現在出力中のレポートログファイルを別名保存し、元のファイルでログ取得を続けることができます。バックアップファイルを作成するのに便利です。

ROTATE コマンドは、バックアップのログファイルを自動的に作成します。運用状況によっては、ログファイル容量が増える可能性があります。定期的にバックアップすると、ファイルの容量を抑えることができます。詳細は[サーバオプションを指定する](#)を参照してください。

- 1 管理画面の **New Reportlog** をクリックします。
New Reportlog For License Server 画面が表示されます。



- 2 ISV リストで vektorwrx を選択します。
- 3 File に、バックアップログを置くファイルパスをファイル名を含めて入力します。
- 4 MOVE DATA TO NEW LOGFILE ボタンをクリックします。

現在のレポートログファイルの内容が、指定したバックアップログに保存されます。また、現在のレポートログにログ内容の記述が続けられます。

レポートログ情報を使用して統計分析を行う

レポートログはテキストファイルで作成されますが、ファイルコンバータユーティリティの Log File Converter を使用して、Excel 形式に変換できます。Log File Converter は、ライセンス管理ソフトウェアのフォルダ内に置かれています。

ログファイルを変換すると、割り当てられた期間内に実行されている各製品のライセンス数を確認したり、サーバの統計情報に関する計算を行ったりできます。こうした情報は、管理者にとって有益な基準データとなります。

レポートログを変換するには：

- 1 ライセンス管理ソフトウェアのフォルダに移動します。
- 2 Log File Converter.app (Mac) または LogFileConverter.exe (Windows) をダブルクリックします。
Log File Converter ユーティリティが開きます。
- 3 **Select log file** をクリックして、RLM log file ダイアログボックスを開きます。レポートログファイルを指定します。
- 4 **Save excel file** をクリックして、Excel file ダイアログボックスを開きます。変換したファイルを保存する場所とファイル名を指定します。
- 5 **Convert** ボタンをクリックして、テキストファイルを、Excel など一般的なスプレッドシートプログラムで使用できるファイルに変換します。
- 6 変換が完了したら、**Quit** ボタンをクリックして Log File Converter を閉じます。
作成された Excel ファイルを開いて、グラフの作成やさまざまな解析に使用できます。

1	09/05/2011	14:41:45																		
2	Date	Version	Product	Seats	0:00 - 1:00	1:00 - 2:00	2:00 - 3:00	3:00 - 4:00	4:00 - 5:00	5:00 - 6:00	6:00 - 7:00	7:00 - 8:00	8:00 - 9:00	9:00 - 10:00						
3	09/05/2011	2016	architect	2	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
4		2016	designer	2	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
5		2016	fundamentals	2	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
6		2016	renderworks	2	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
7	09/05/2011	14:41:45																		

変換されたスプレッドシートファイルには、次の情報が含まれています。

パラメータ	説明
Date	統計が生成された日付です。
Version	Vectorworks のバージョンです。
Product	Vectorworks のモジュール名です。
Seats	モジュールごとに使用可能なライセンスの数です。
(時刻表示)	<p>時間帯ごとに使用されているライセンスの数を表示します。クライアントを起動すると使用中のライセンス数が増加し、クライアントを終了すると、その数は減少します。モジュールを数時間続けて使用すると、モジュールの使用中は増加した数のまま維持されます。</p> <p>モジュールごとの起動数がカウントされます。時間内にクライアントの再起動と終了を繰り返すと、使用中の数は利用可能なライセンスの最大値まで増加します。</p> <p>1日の途中でライセンスを更新し、特定のモジュールが利用できなくなると、使用できない時間帯はアスタリスク (*) で示されます。翌日の統計値には表示されません。</p> <p>1日の途中でライセンス数を変更すると、その日の終わり (日付が変わる時点) に新しい値が反映されます。</p>
Borrow	1日の終わり (日付が変わる時点) に持ち出されているライセンスの数を表示します。

このユーティリティを実行するには、**Visual C++ 2012 Redistributable Package** が必要です。これは、ライセンス管理ソフトウェアと共にインストールされます。別のマシンでコンバータを実行するために dll が必要な場合は、別途インストールする必要があります。**Redistributable Package** は、microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=30679 で入手できます。

~~~~~  
サーバ稼働状況ログ

## デバッグログ

デバッグログには設定が記載されており、サーバの起動で起こるすべてのイベントや、サーバおよび環境に関するその他の情報を記録します。問題が発生した際の解決のヒントになります。デバッグログを、ライセンス管理ソフトウェアを起動するコマンドプロンプトに追加するオプションとして、**Service Definition** 画面か、コマンドプロンプト (Windows) またはターミナル (Mac) で作成します。

## デバッグログの設定

Windows バージョンには、Mac にはない **Service Definition** 画面が含まれるため、設定手順が異なります。

Windows でデバッグログを設定するには：

- 1 サーバマシン（できればライセンス管理ソフトウェアのフォルダ内）にデバッグログ用のフォルダを作成します。コマンドで指定するフォルダは、事前に用意しておく必要があります。
- 2 管理画面の **Manage Windows Service** をクリックします。

Service Definition フォームが表示されます。

The screenshot shows a window titled "Manage Windows Service for RLM license server". On the left, a sidebar menu has "Manage Windows Service" selected. The main area contains a "Service Definition" form with the following fields and values:

- Service Action: **INSTALL service** (dropdown)
- Service Name: **rlm** (text input)
- Service Description: **RLM License Server** (text input)
- Server Debug Log: **C:\Users\...\Vectorworks Netwc** (text input)
- Server License File Directory: **C:\Users\...\Vectorworks Netwc** (text input)
- Webserver port #: (empty text input)
- ISV server startup delay (seconds): **0** (text input)
- Admin webservice disabled:
- rimdown command disabled:
- rimremove command disabled:

Buttons for "Apply" and "Cancel" are located at the bottom of the form.

- 3 Server Debug Log に、デバッグログのファイルパスとファイル名を入力します。

- 4 **Apply** ボタンをクリックします。

指定したデバッグログのテキストファイルが、指定した場所に作成されます。

RLM サーバを再起動すると、既存のログファイルは上書きされます。RLM サーバを再起動する前にログファイルのバックアップを作成するか、**サーバ起動オプション**で説明している + オプションを使用して、ログファイル名を自動的に増分させます。

Mac または Windows のコマンドプロンプトからデバッグログを設定するには：

- 1 ライセンス管理ソフトウェアを終了します。[RLM サーバを終了する](#)を参照してください。
- 2 サーバマシン（できればライセンス管理ソフトウェアのフォルダ内）にデバッグログ用のフォルダを作成します。コマンドで指定するフォルダは、事前に用意しておく必要があります。
- 3 管理者権限でコマンドプロンプト（Windows）またはターミナル（Mac）を開きます。
- 4 ライセンス管理ソフトウェアのフォルダに移動して、Enter キーを押します。

Windows：cd C:\Program Files (x86)\Vectorworks Site Protection Server

Mac：cd /Applications/Vectorworks\ Site\ Protection\ Server

- 5 下記のコマンドを入力後、Enter または Return キーを押します。

| コマンド  | 説明                                                                                              | 構文                                                                                                |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| -dlog | デバッグログの場所とファイル名を設定します。ファイルパスは相対パスでも絶対パスでも指定できます。相対パスを使用する場合、現在のフォルダはライセンス管理ソフトウェアのインストールフォルダです。 | -dlog_ ファイルパス ファイル名<br>Windows での例：rlm.exe_-dlog_Log\dlog.txt<br>Mac での例：./rlm_-dlog_Log/dlog.txt |

- 6 ライセンス管理ソフトウェアが起動します。
- 7 指定したデバッグログのテキストファイルが、指定した場所に作成されます。

RLM サーバを再起動すると、既存のログファイルが上書きされます。RLM サーバを再起動する前にログファイルのバックアップを作成するか、[サーバ起動オプション](#)で説明している+オプションを使用して、ログファイル名を自動的に増分させます。

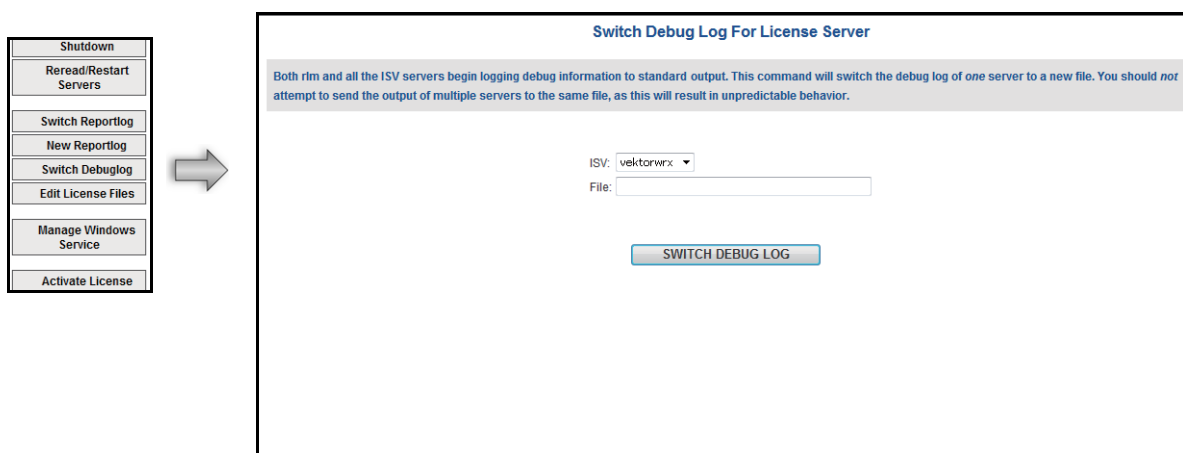
### 別のデバッグログファイルに切り替える

デバッグログを作成したら、サーバを終了せずに、使用中のデバッグログから別のログファイルを指定して切り替えることができます。

デバッグログのデータを記録するには、最初にコマンドプロンプトまたはターミナルでログを作成する必要があります。

- 1 管理画面の **Switch Debuglog** をクリックします。

Swich Debug Log For License Server 画面が表示されます。



- 2 ISV リストで vektorwrx を選択します。
- 3 File に、ログが置かれているファイルパスをファイル名を含めて入力します。

#### 4 SWITCH DEBUG LOG ボタンをクリックします。

デバッグログが別のファイルに切り替わります。

~~~~~  
デバッグログを表示する
サーバ稼働状況ログ

ポート番号を変更する

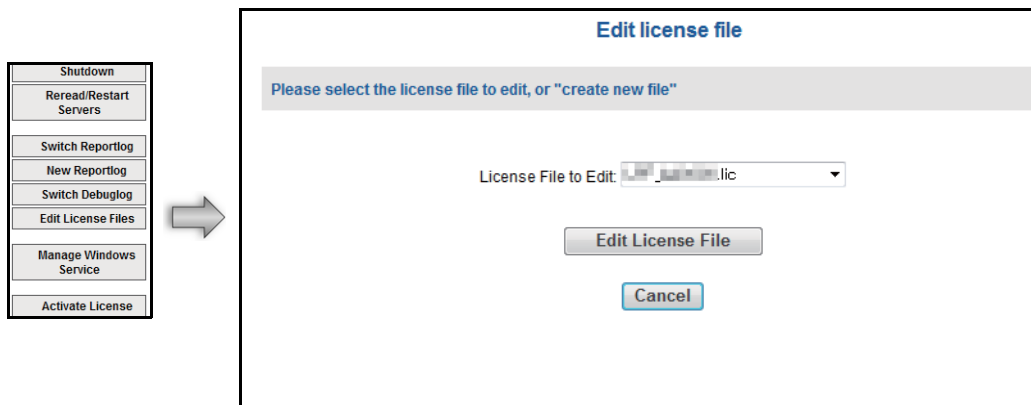
サーバのポート番号を変更する

まれに、ライセンス管理ソフトウェアで使用するポート番号を変更する必要があります。たとえば、別のアプリケーションですでにデフォルトのポート番号を使用していることがあります。ライセンスファイル (.lic) を編集して、ポート番号を変更します。

ライセンスファイルの編集には、十分な注意が必要です。

1 管理画面の **Edit License Files** をクリックします。

Edit license file 画面が表示されます。



2 **License File to Edit** リストで、編集したいライセンスファイルを選択します。

3 **Edit License File** ボタンをクリックします。

Edit license file 画面が表示されます。以下に、ライセンスファイルの例を示します。

```
HOST localhost hasp4=XXXXXXX ( ドングル ID) 5053
ISV vektorwrx
LICENSE vektorwrx fundamentals 2017 permanent 6 issued=22-oct-2016
options=model=floating_ck=xxxxxxx sig="xxxxxxxxxxxxxxxxx"
```

- **5053** : RLM サーバのポート番号です。デフォルト値は 5053 です。クライアントとの接続に必要なポートです。
 - **ISV vektorwrx** : 内部的に使用している ISV サーバのポート番号を指定するパラメータです。デフォルト設定では空いているポートを自動的に割り当てます。
- 4 ポート番号を変更するには、以下を入力します。ISV vektorwrx port=nnnn (nnnn は希望するポート番号) 他の箇所は編集しないでください。ライセンス管理ソフトウェアが起動しなくなる恐れがあります。
- 5 **Update License File** ボタンをクリックして、変更した内容を保存します。
- 6 ライセンス管理ソフトウェアを再起動します。[RLM サーバを終了する](#)を参照してください。

バージョンアップした場合、または Fundamentals ライセンスやプラグインモジュール（Renderworks、Architect モジュール、Landmark モジュール、Spotlight モジュール、Designer モジュール）を追加購入した場合などは、古いライセンスファイルを削除し、新しく入手したライセンスファイルと入れ替えてから、必要に応じて適宜編集してご利用ください。

ライセンスファイルの置き換えを行う場合は、以下にご注意ください。

* ライセンスの持ち出し中はライセンス条件を変更出来ません。持ち出されているライセンスをすべて一旦回収してから（返却させてから）、作業を行ってください。

管理画面のポート番号を変更する

管理画面にはウェブブラウザでアクセスし、デフォルトのポート番号 5054 を通じて情報が表示されます。ポート番号 5054 がすでに別のアプリケーションに割り当てられているか、他に何らかの理由がある場合は、デフォルトのポート番号を変更できます。

- 1 ライセンス管理ソフトウェアを終了します。[RLM サーバを終了する](#)を参照してください。
- 2 コマンドプロンプト（Windows）またはターミナル（Mac）を起動します。
- 3 ライセンス管理ソフトウェアのフォルダに移動します。
- 4 下記のコマンドを入力して Enter キーを押し、新しいポート名で RLM サーバを再起動します。

```
rlm.exe -ws nnnn （nnnn はポート番号）
```

この起動オプションは、サーバを起動するたびに指定する必要があります。

[Windows サービスで起動する場合（Windows）](#)は、サービス設定でポートを変更できます。詳細は[Windows サービスを登録する](#)を参照してください。

~~~~~

サーバ管理画面

管理画面のポート番号を変更する

サーバ起動オプション

## ライセンス管理ソフトウェアを終了する

RLM サーバと ISV サーバは、別の方法で個別に終了します。

通常、終了および再起動する可能性があるのは、ISV サーバです。動作に問題があるなど、完全に終了する場合は、ISV サーバを終了させた後に RLM サーバを終了させてください。

Vectorworks クライアントはサーバに定期的に（10 秒間隔で）自動接続し、接続確認を行います。サーバが起動していない場合は、接続に失敗したことがクライアントに通知されます。開いているすべてのファイルを保存した後、Vectorworks 製品が自動的に終了します。モジュールまたはライセンスを持ち出し中の場合は、ISV サーバを終了しても持ち出し中のクライアントには影響しません。ただし、ISV サーバが起動していないと、持ち出し期限前にライセンスを返却できません。

~~~~~

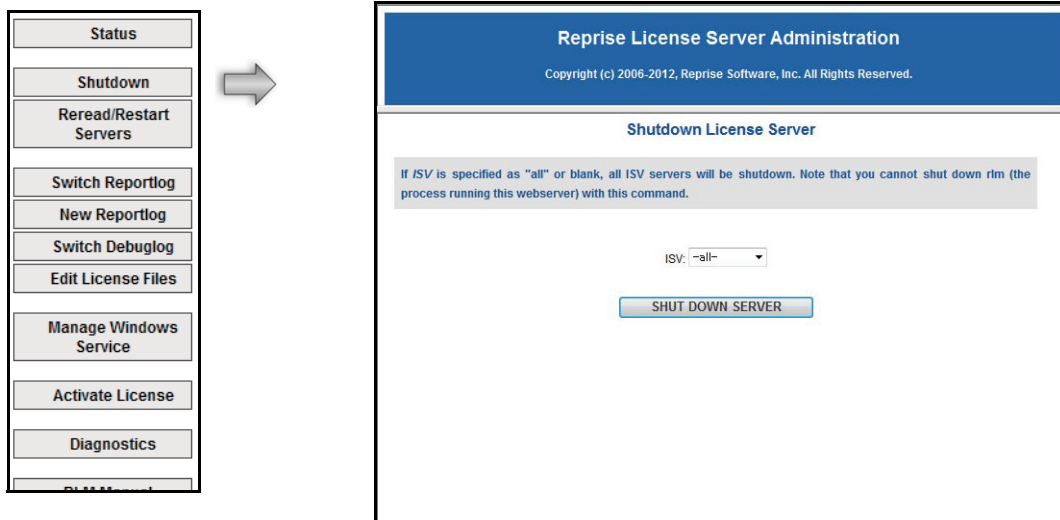
ISV サーバを終了する

RLM サーバを終了する

ISV サーバを終了する

ISV サーバを終了するには：

- 1 管理画面の **Shutdown** をクリックします。
Shutdown License Server 画面が表示されます。



2 **SHUT DOWN SERVER** ボタンをクリックします。ISV サーバが終了します。

終了後も、管理画面からさまざまなタスクを行うことができます。

ISV サーバを再起動する

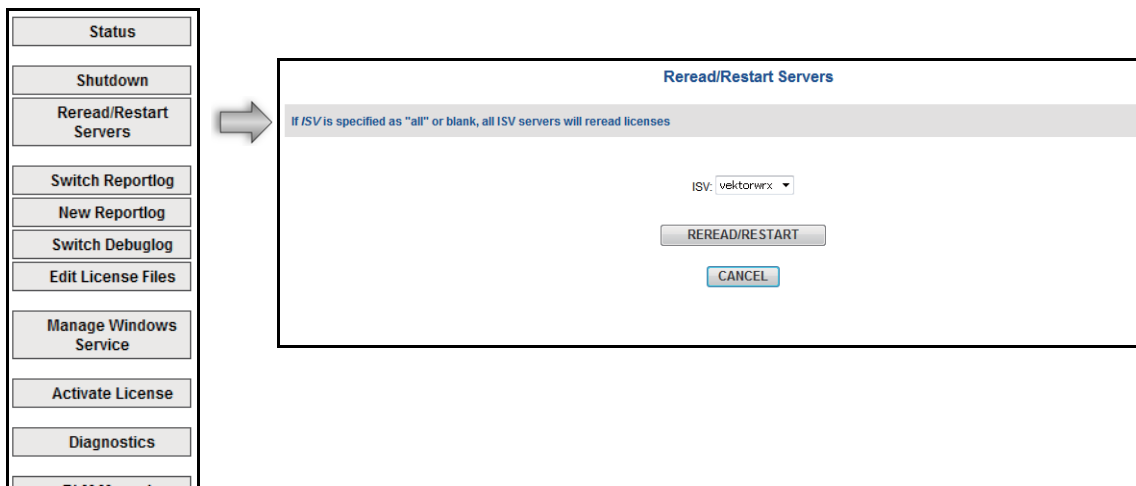
ライセンスファイルが変更されたか、オプションが追加または削除された場合は、ライセンスファイルを再読み込みしてオプションを更新できます。ISV サーバを終了した場合は、再起動できます。

ISV サーバは、毎日深夜 0 時にすべてのライセンスファイルを自動的に再読み込みします。

現在のライセンス情報を再読み込みするか、または ISV サーバを再起動するには：

1 管理画面の **Reread / Restart Servers** をクリックします。

Reread / Restart Servers 画面が表示されます。



2 ISV ドロップダウンリストで「vektorwrx」を選択し、**REREAD / RESTART** ボタンをクリックします。

ISV サーバが実行中の場合は、ライセンス情報を再読み込みします。ISV サーバを終了した場合は、再起動されます（この時にライセンスファイルが再読み込みされます）。

ISV ドロップダウンリストで「-all」を選択すると、ライセンス管理ソフトウェアだけでなく、Reprise License Manager で管理しているすべてのソフトウェアが再起動されます。

~~~~~  
RLM サーバを終了する

## RLM サーバを終了する

通常、RLM サーバを終了する必要はありません。システムが不安定な場合にのみ終了してください。

最初に ISV サーバを終了します。

### Mac

ターミナルウィンドウがアクティブの場合は、ウインドウ上で **Ctrl + C** キーを押すとプロセスが終了します。その他、アクティビティモニタを利用して終了することもできます。

アクティビティモニタを利用して RLM サーバを終了させるには：

- 1 ISV サーバを終了します。
- 2 **アプリケーション > ユーティリティ** を選択して、アクティビティモニタを起動します。



- 3 プロセスリストで **rlm** を選択します。
- 4 **プロセスの終了** をクリックします。終了したいプロセスを確認して、**終了** をクリックします。

### Windows

サーバを Windows サービスに登録してインストールした場合は、[Windows サービスを停止する](#)を参照して、Windows サービスを終了します。

ライセンスサーバを Windows サービスに登録してインストールしていない場合は、DOS プロンプト上で **Ctrl + C** キーを押すとプロセスが終了し、プロンプト画面が閉じます。

デバッグログの作成時またはポート番号の変更時にコマンドプロンプトでサーバを起動した場合は、タスクマネージャに移動してプロセスを終了するか、コマンドプロンプトで次のコマンドを実行してプロセスを終了します。

```
./rlmutil rlmdown RLM
```

## RLM サーバを再起動する

RLM サーバを終了した場合は、必要に応じてサーバマシンを再起動します。

### Windows :

ライセンス管理ソフトウェアを Windows サービスに登録してインストールした場合は、自動的に再起動されます。自動的に再起動されない場合は、ライセンス管理ソフトウェアのフォルダ内にある **rlm.exe** ファイルを右クリックし、**管理者として実行** を選択します。

### Mac :

サーバマシンを再起動します。ライセンス管理ソフトウェアをデーモンとしてインストールした場合は、自動的に再起動されます。自動的に再起動されない場合は、以下の方法で起動します。

- 1 「アプリケーション」フォルダ > 「ユーティリティ」フォルダ内のターミナル **.app** をダブルクリックします。

- 2 ターミナルが起動します。cd とタイプした後にスペースキーを押し、半角スペースを入力します。
- 3 ライセンス管理ソフトウェアのフォルダ（「Vectorworks Site Protection Server」フォルダ）をターミナルウィンドウにドラッグ & ドロップして、return キーを押します。
- 4 現在のディレクトリが「Vectorworks Site Protection Server」ディレクトリに移ります。「Vectorworks Site Protection Server」フォルダ内の rlm ファイルをターミナルウィンドウにドラッグ & ドロップして、return キーを押します。
- 5 ライセンス管理ソフトウェアが起動します。

コマンドプロンプトまたはターミナルで、ライセンス管理ソフトウェアのフォルダに移動して `rlm.exe` コマンドを入力し、サーバを起動することもできます。この方法では、起動時にオプションを設定できます。[サーバ起動オプション](#)を参照してください。Windows では、この方法でスタンドアロンのプログラムとして起動した場合、ソフトウェアの実行中は、コマンドプロンプトを開いたままにしておく必要があります。Mac では、ターミナルを閉じることができます。

~~~~~  
 サーバ起動オプション
 Windows サービスの設定
 ISV サーバを終了する
 サーバ管理画面

サーバ起動オプション

通常、サーバ管理者はウェブブラウザのインターフェースを使用してサーバコマンドにアクセスし、サーバオプションを設定します。一部のコマンドは、起動時にコマンドプロンプトのオプションで設定することもできます。あまり使わないごく少数のコマンドはこの方法でのみ設定でき、ブラウザのインターフェースには該当するパラメータがありません。

ブラウザで設定できないコマンドの場合は、コマンドプロンプトまたはターミナルにコマンドを入力する代わりに、Windows ではショートカットを作成し、プロパティのリンク先のパスにオプションコマンドを追記して指定できます。Mac では `bash` スクリプトを作成し、指定できます。

設定オプションを指定するには：

- 1 ライセンス管理ソフトウェアを終了します。[RLM サーバを終了する](#)を参照してください。
- 2 コマンドプロンプト（Windows）またはターミナル（Mac）を起動します。
- 3 ライセンス管理ソフトウェアのフォルダ（「Vectorworks Site Protection Server」フォルダ）に移動します。
- 4 起動コマンドに続いてダッシュとオプション名を入力し、Enter キーを押して、RLM サーバを再起動します。

rlm.exe - オプションコマンド

有効にするには、サーバを起動するたびに起動オプションを指定する必要があります。

起動オプション	説明	例
-c_ ライセンスファイル	使用するライセンスファイル (.lic) を指定します（通常は、すべてのライセンスファイルを使用します）。	rlm.exe_-c_ABCD1234.lic
-c_ フォルダ名	すべてのライセンスを使用しない場合は、使用するライセンスファイルをフォルダ内に置き、オプションにフォルダ名を入力します。それらのライセンスのみが使用されます。	rlm.exe_-c_licenses

起動オプション	説明	例
-dlog_ファイルパス_ファイル名	<p>デバッグログの場所とファイル名を設定します。ファイルパスは、相対パスでも絶対パスでも指定できます。相対パスを使用する場合、現在のフォルダはライセンス管理ソフトウェアのインストールフォルダです。再起動時、デバッグログは上書きされます。</p> <p>ブラウザのインターフェース (Windows) でも使用できます。デバッグログの設定を参照してください。</p>	<p>Windows での例： rlm.exe_-dlog_Log\dlog.txt</p> <p>Mac での例：/rlm_-dlog_Log/dlog.txt</p>
-dlog+_ファイルパス_ファイル名	<p>上述の手順でデバッグログを作成します。オプションに+記号を追加すると、再起動時に上書きすることなく、ログに自動的にデータが追加されます。</p> <p>ブラウザのインターフェースでも使用できます。サーバオプションを指定するを参照してください。</p>	rlm.exe_-dlog+_Log\dlog.txt
-nows	<p>サーバがウェブブラウザのインターフェースに表示されないようにします。すべてのコマンドは、コマンドプロンプトまたはターミナルで実行する必要があります。</p> <p style="text-align: center;">ウェブブラウザのインターフェースを再び有効にするには、-nows オプションなしでサーバを再起動します。</p> <p>ブラウザのインターフェース (Windows) でも使用できます。管理画面の Manage Windows Service をクリックして、Admin webserver disabled オプションを選択します。</p>	rlm.exe_-nows
-ws_ポート番号	<p>管理画面のポート番号を変更します。管理画面のポート番号を変更するを参照してください。</p> <p>ブラウザのインターフェース (Windows) でも使用できます。管理画面の Manage Windows Service をクリックして、Webserver port # に新しいポート番号を入力します。</p>	rlm.exe_-ws_5056

起動オプション	説明	例
-x_rlm -x_rlmremove	<p>削除コマンドの rlm down および rlm を無効にするかどうかを制御します。rlm down コマンドを無効にすると、ISV サーバを終了できなくなります。rlm remove コマンドを無効にすると、クライアントが使用しているライセンスを削除するオプションが無効になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • -x は両方のコマンドを無効にします。 • -x_rlm down • -x_rlm remove <p>ブラウザのインターフェース (Windows) でも使用できます。管理画面の Manage Windows Service をクリックして、rlm down command disabled と rlm remove command disabled の両方またはどちらか一方のオプションを選択します。</p>	-x_rlm down
-install_service_ サービス名 (Windows)	<p>サーバソフトウェアを Windows サービスとして登録します。サービス名を入力します。これは、サーバマシン上にブラウザがなくてもサーバソフトウェアを自動的に起動させたい場合に便利です。</p> <p>ブラウザのインターフェースでも使用できます。Windows サービスを登録するを参照してください。</p>	-install_service_rlm
-isv_startup_delay	<p>ISV サーバの起動時間を、指定した秒数だけ遅らせます。サーバシステムが遅く、ドングルドライバの特定に時間がかかる場合は、ここで時間を延長できます。</p> <p>ブラウザのインターフェース (Windows) でも使用できます。管理画面の Manage Windows Service をクリックして、ISV server startup delay に遅らせる秒数を入力します。</p>	-isv_startup_delay_10
-v	<p>RLM サーバを起動し、バージョン番号をコマンドプロンプトにプリントして、終了します。</p> <p>ブラウザのインターフェースでも使用できます。管理画面の System Info をクリックします。</p>	-v
-info	<p>過去 24 時間にサーバマシンで実行されていたすべての RLM コピーに関する情報をプリントして、終了します。</p> <p>ブラウザのインターフェースでも使用できます。管理画面の System Info をクリックします。</p>	-info

~~~~~  
Windows サービスの設定  
サーバのパスワードを設定する

RLM オプションを制御する

## サーバのパスワードを設定する

rlm.exe が置かれているのと同じフォルダ（通常はライセンス管理ソフトウェアのフォルダ）にパスワードファイル *rlm.pw* を追加すると、RLM ウェブブラウザのインターフェースへのアクセスを制御できます。このファイルがある場合は、さまざまなタスクでユーザ名とパスワードが必要になります。

パスワードファイルのパスワード設定は、ユーザ名、パスワード、許可された権限で構成され、コロンで区切ります。許可された権限が複数ある場合は、カンマで区切ります。

username:password:remove, 編集オプション

空のパスワードでパスワードファイルを設定して、個々のユーザが後でウェブブラウザのインターフェースで変更できるようにします。以下に例を示します。

lauren::shutdown,remove

以下の表では、割り当て可能な権限を一覧表示しています。

| 権限               | 説明                                                             |
|------------------|----------------------------------------------------------------|
| all              | すべての権限を有効にします。                                                 |
| edit_meter       | 本ソフトウェアでは使用できません。                                              |
| edit_options     | ISV オプションを設定できます。                                              |
| edit_rlm_options | ライセンスファイルと rlm サーバオプションファイルを編集できます。                            |
| edit_xfer        | 本ソフトウェアでは使用できません。                                              |
| logfiles         | レポートログおよびデバッグログのさまざまなログファイル機能（新規ログファイルの作成、ログファイルの切り替え）を有効にします。 |
| remove           | Vectorworks プログラムを実行中のクライアントからライセンスを削除して、クライアントを終了します。         |
| reread           | ライセンスファイルを再読み込みします。                                            |
| shutdown         | ライセンスサーバを終了します。                                                |
| status           | ライセンスに関するステータスおよびデバッグログ情報を表示します。                               |

パスワードファイルの個別のユーザに権限を割り当てるだけでなく、RLM オプションファイルのグループ、マシン、IP アドレスを指定して、この表に記載されている権限をそれらのグループに適用できます。以下に例を示します。

EXCLUDE shutdown group architects

詳細は [RLM オプションを制御する](#) を参照してください。

RLM オプションを制御する

Windows サービスの設定

ISV サーバの各画面

## RLM オプションを制御する

ISV サーバが Vectorworks プログラムのライセンスに関する特定の機能を管理するのに対して、RLM サーバはライセンス管理の中核機能を処理します。[サーバオプションを指定する](#)のセクションでは、ユーザ、コンピュータ、IP アドレスのグループを作成して、Vectorworks 固有の ISV 権限を割り当てる方法を詳細に説明しています。このセクションでは、RLM オプションを通じてグループに権限を割り当てる類似の方法について説明します。

割り当てまたは制限できる権限は、サーバのパスワードを設定するで定義しています。

ユーザまたはグループに割り当てる権限を指定して編集するには：

- 1 管理画面で **Status** をクリックします。  
サーバステータスペインが表示されます。
- 2 **EDIT rlm Options** ボタンをクリックします。  
Edit RLM Options 画面が表示されます。
- 3 サーバ構文で説明している構文を使って、rlm オプションを指定または編集します。  
構文と例では、クライアントまたはクライアントグループの権限を設定するにあたり、ユーザ、ホスト、インターネット、グループ、ホストグループ、インターネットグループの区別なく指定できます。

| コマンド       | 説明                            | 構文                                                                      |
|------------|-------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|
| Excludeall | 特定のクライアントの権限を一切許可しません。        | EXCLUDEALL_group_グループ名<br>例：EXCLUDEALL_group_interns                    |
| Exclude    | クライアントに対し、指定した権限を制限します。       | EXCLUDE_権限_ユーザ名<br>例：EXCLUDE_remove_name_sam                            |
| Includeall | 特定のクライアントに対し、すべての権限の使用を許可します。 | INCLUDEALL_ホストグループ_グループ名<br>例：INCLUDEALL_status_host_group_IT           |
| Include    | クライアントの権限を指定します。              | INCLUDE_権限_internet_IP アドレス<br>例：INCLUDE_shutdown_Internet_172.67.94.13 |

- 4 **Update Options** ボタンをクリックします。

オプションは、RLM ソフトウェアと同じネットワークライセンスフォルダに置かれている *rlm.opt* ファイルに保存されます。

~~~~~  
デバッグログ

Windows サービスの設定

Windows 環境では、ライセンス管理ソフトウェアを Windows サービスとしてインストールできます。この機能により、マシンを起動すると自動的にライセンス管理ソフトウェアは起動し、システムの実行中はライセンス管理ソフトウェアが稼働し続けます。

通常、ライセンス管理ソフトウェアはインストール時に Windows サービスとして登録されますが、インストール時に登録していないなどの場合でも、以下のオプションで、ライセンス管理ソフトウェアを Windows サービスとして制御することが可能です。

Windows サービスを設定するには、管理者としてサーバを起動する必要があります。

~~~~~  
Windows サービスを登録する  
Windows サービスの登録を解除する  
Windows サービスを停止する  
Windows サービスを再起動する

### Windows サービスを登録する

- 1 管理画面の **Manage Windows Service** をクリックします。  
Service Definition フォームが表示されます。
- 2 必要な設定を行い、サービスに登録します。

Reread/Restart Servers

Switch Reportlog

New Reportlog

Switch Debuglog

Edit License Files

Manage Windows Service

Activate License

Diagnostics

RLM Manual...

System Info

➔

### Manage Windows Service for RLM license server

This form installs or removes a Windows Service to automatically start the RLM license server. Select the action to perform, fill in the form, and press "Apply".

#### Service Definition

Service Action:

Service Name:

Service Description:

Server Debug Log:

Server License File Directory:

Webserver port #:

ISV server startup delay (seconds):

Admin webserver disabled:

rimdown command disabled:

rimremove command disabled:

| パラメータ                                                                   | 説明                                                                                                                   |
|-------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Service Action (サービスアクション)                                              | INSTALL service (サービスのインストール) を選択すると Windows サービスとしてインストールし、REMOVE service (サービスの削除) を選択すると Windows サービスのリストから削除します。 |
| Service Name (サービスネーム)                                                  | Windows の「サービス」で表示される名前を入力します。デフォルトでは rlm です。                                                                        |
| Service Description (サービスディスクリプション)                                     | サービスの説明を入力します。デフォルトでは RLM License Server です。                                                                         |
| Server Debug Log (サーバデバッグログ)                                            | サーバのデバッグログの場所を指定します。デフォルトでは rlm.exe と同じ階層です。 <a href="#">デバッグログ</a> を参照してください。                                       |
| Server License File Directory (サーバライセンスファイルディレクトリ)                      | ライセンスファイルの場所を指定します。デフォルトでは rlm.exe と同じ階層です。                                                                          |
| Webserver port # (管理画面のポートナンバー)                                         | 管理画面のポート番号を変更する場合は、管理画面のポート番号を指定します ( <a href="#">管理画面のポート番号を変更する</a> を参照)。                                          |
| ISV server startup delay (seconds) (ISV サーバスタートアップディレイ (秒)) (通常は使用しません) | ISV サーバ (ライセンス管理ソフトウェアのライセンス部分) の開始を遅らせる場合に、秒数を指定します。この設定をすることで、ライセンス管理ソフトウェアの起動が遅いために生じる問題を防ぎます。                    |
| Admin webserver disabled* (アドミンウェブサーバディスエイブルド) (通常は使用しません)              | このチェックボックスをオンにすると、管理画面が利用できなくなります (すべての操作がコマンドプロンプトのインターフェースでのみ行えるようになります)。                                          |



| パラメータ                                                               | 説明                                                                                               |
|---------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| rlmdown command disabled* (rlmdown コマンドディスエイブルド)<br>(通常は使用しません)     | このチェックボックスをオンにすると、ISV サーバの終了ができなくなります。また、管理画面上で SHUTDOWN ボタンが非表示になります。                           |
| rlmremove command disabled* (rlmremove コマンドディスエイブルド)<br>(通常は使用しません) | このチェックボックスをオンにすると、ユーザが使用中のライセンスを強制的にライセンス管理ソフトウェアに戻せなくなります。また、ライセンスステータス画面で REMOVE ボタンが非表示になります。 |

\*表内で「\*」が付いているパラメータを一時的に無効にするには、サービスを停止してから rlm.exe を実行してください。

- 3 **Service Action** リストで INSTALL service を選択します。
- 4 **Apply** ボタンをクリックしてサービスをインストールします。
- 5 設定後、マシンを再起動します。

スタートアップの種類は「自動」でインストールされています。マシンを再起動すると、ライセンス管理ソフトウェアが自動的に起動されます。

登録された Windows サービスが起動すると、(デバッグログの説明と同じ情報を含む) vektorwrx.dlog ファイルがライセンス管理ソフトウェアのフォルダ内に作成されます。

~~~~~

Windows サービスの設定

Windows サービスの登録を解除する

Windows サービスのリストからライセンス管理ソフトウェアを削除できます。Windows で、自動的にライセンス管理ソフトウェアが起動されることはなくなります。

- 1 管理画面の **Manage Windows Service** をクリックします。
Service Definition フォームが表示されます。
- 2 **Service Action** リストで REMOVE service を選択します。
- 3 **Apply** ボタンをクリックします。
指定している RLM がサービスとして実行中の場合は、サービスを削除できません。最初にサービスを停止してから、サービスを削除してください。

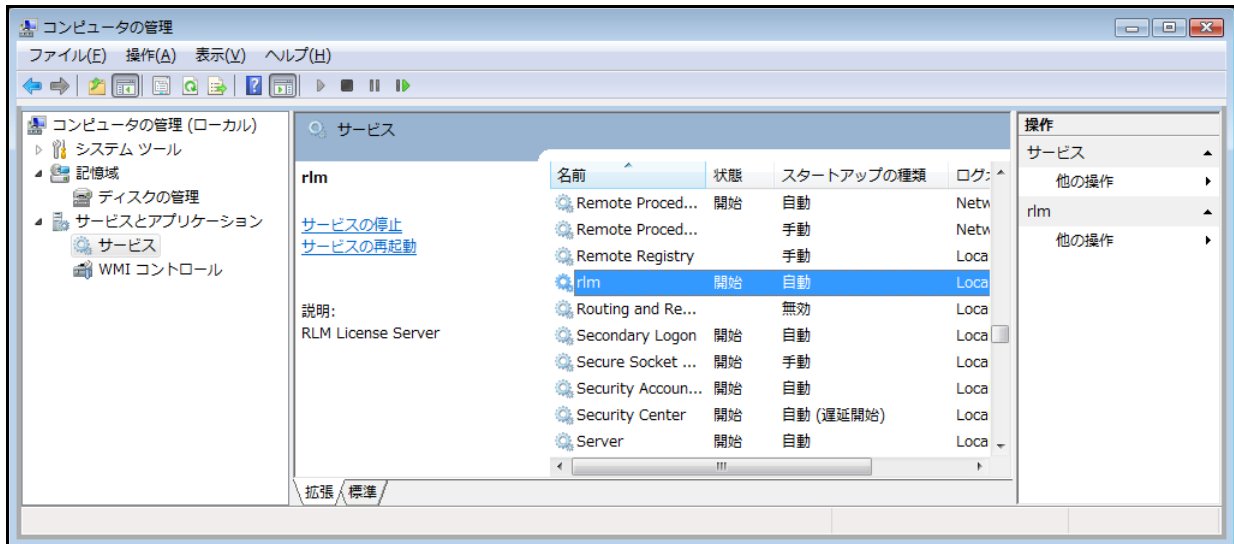
~~~~~

Windows サービスの設定

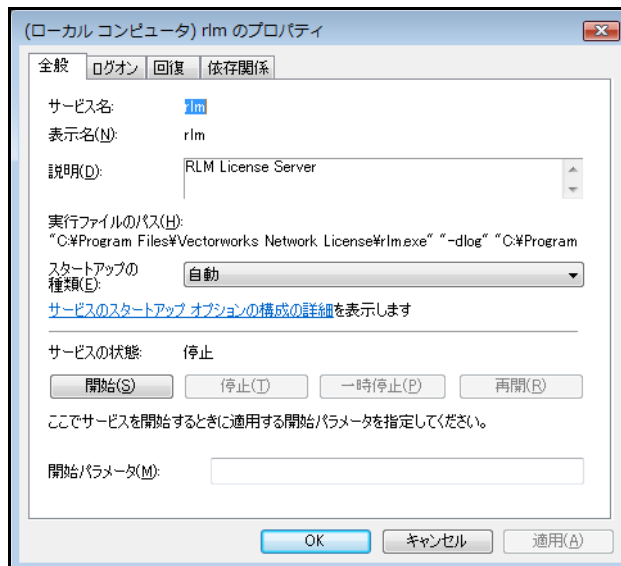
Windows サービスを停止する

## Windows サービスを停止する

- 1 ISV サーバを終了するの手順に従い、ISV サーバを終了させます。
- 2 Windows のコントロールパネルを開きます。
- 3 サービスダイアログボックスに移動して、rlm を検索します。rlm をダブルクリックして、プロパティダイアログボックスを開きます。



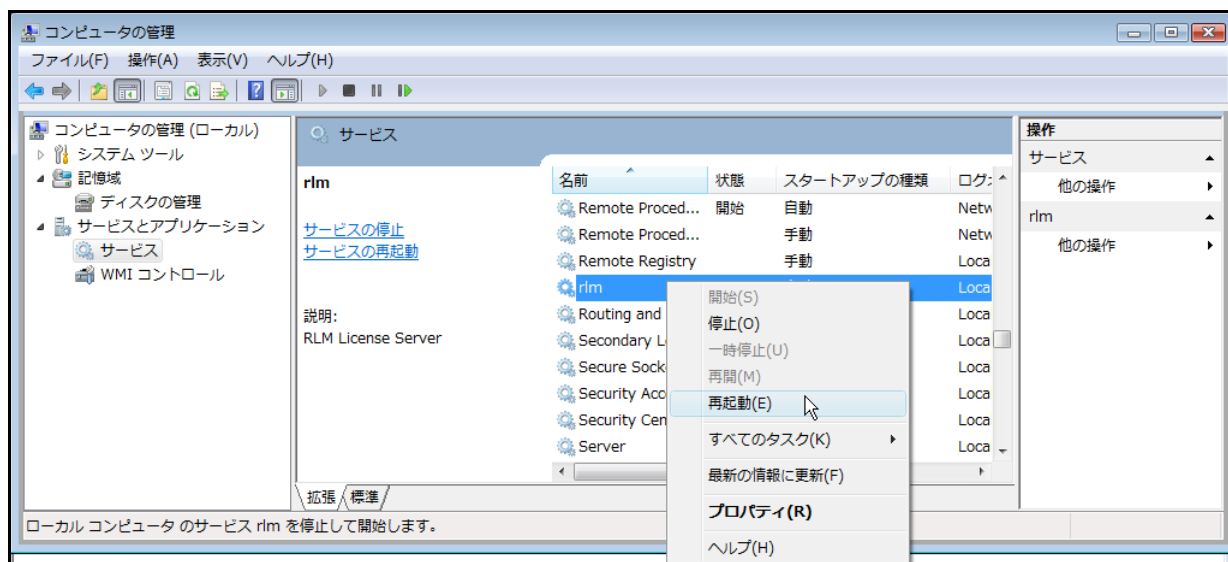
4 サービスの状態の停止ボタンをクリックするとサービスが停止します。



Windows サービスの設定

## Windows サービスを再起動する

- 1 Windows のコントロールパネルを開きます。
- 2 サービスダイアログボックスに移動して、rlm を右クリックします。
- 3 コンテキストメニューから再起動をクリックします。



ライセンス管理ソフトウェアの起動時にファイアウォールのブロックを解除するようにサービスを設定してください。

## トラブルシューティング

このセクションでは、よくある問題や可能な解決策について説明します。その他お問い合わせの多い項目や最新情報については、テクニカルサポートデスクの製品別 Q&A ページも併せてご覧ください。

起動・認証時の確認事項  
 クライアントまたはサーバの問題  
 エラーメッセージ一覧

### 起動・認証時の確認事項

以下では、サーバまたはクライアントマシンの起動時や認証時のトラブルをまとめています。

- 管理者（Administrator）権限以外でログオンしていませんか？  
 ライセンス管理ソフトウェアのインストールと実行には、管理者権限が必要です。ユーザ権限などでログオンしている場合は、管理者権限でログオンし直してください。
- 必要なフォルダのアクセス権限に制限をかけていませんか？  
 システムを使用するには、すべてのアカウントで、ライセンス管理ソフトウェアフォルダおよび Vectorworks インストールフォルダの読み書き（フルコントロール）アクセスを有効にしておく必要があります。
- サーバとクライアントの間で、時刻設定にズレはありませんか？  
 サーバとクライアントの時刻に大きなズレが生じている場合は、認証できません。
- サーバライセンスファイルとクライアントログイン設定で、同じポート番号を設定していますか？  
 通常は、デフォルト値の 5053 を使用してください。
- ログイン設定ダイアログボックスで、正規の IP アドレスを入力していますか？  
 サーバマシンの IP アドレスを確認し、必要に応じて正規の IP アドレスを入力してください。
- ウイルス対策ソフトウェアまたはオペレーティングシステムの設定がサーバまたはクライアントと競合していませんか？

セキュリティソフトの設定を確認してください。場合によっては、ファイアウォールの設定を調整する必要があります。

クライアントまたはサーバの問題  
エラーメッセージ一覧

## クライアントまたはサーバの問題

### 状況：ライセンス管理ソフトウェアが起動しない。

- ドングルを接続し直し、ライトが点灯していることを確認してください。ライトが点灯していない場合は、別の USB ポートに挿入するか、サーバマシンを再起動してみてください。問題が解消されない場合は、ライセンス管理ソフトウェアを再インストールしてください。これによりドングルドライバが再インストールされます。
- ライセンスファイルが適切なフォルダに置かれていることを確認してください。デフォルトでは、ライセンス管理ソフトウェアのフォルダ内に置く必要があります。
- デバッグログから、サーバの動作について何らかのヒントが得られることもあります。サーバのステータスを確認して、ログのエラーメッセージをチェックしてください。[デバッグログ](#)を参照してください。

### 状況：クライアントソフトウェアが起動しない。

- サーバ上の意図しない ISV オプションでユーザに制限がかかっていないことを確認してください。
- ログイン設定ダイアログボックスでポート番号を確認してください。通常、サーバを自動検出にチェックが入っており、デフォルトのポート番号には 5053 が指定されています。サーバとクライアントの間で、ポート番号が一致していることを確認してください。
- ファイアウォールがサーバまたはクライアントの通信をブロックしていないことを確認してください。
- ネットワークが原因で認証に問題が生じることがあります。サーバとクライアント間の ping 状況を確認し、問題のある場合はネットワーク状況を再確認してください。
- サーバマシンの IP アドレスを動的 (DHCP) に設定していると、サーバとクライアント間の接続に問題が生じることがあります。固定 IP アドレスを使用してください。

### 状況：クライアントの Vectorworks プログラムは終了しているが、ライセンスカウントが変わらない。

- ネットワーク接続の不具合や切断は、ライセンスカウントのエラーにつながる場合があります。サーバとクライアント間の ping 状況を確認し、問題のある場合はネットワーク状況を再確認してください。ネットワークを避けてテストします。クライアントマシンとサーバのみで構成されるシンプルなネットワークを一時的に設定します。
- ネットワークの切断後にクライアントソフトウェアが強制終了されたり、何らかの理由で終了の信号がサーバに届かなかつたりした場合、ライセンスのカウントは一時的に誤った値になります。クライアントマシンの Vectorworks 製品を再起動して、適切に終了します。問題が解消されない場合は、サーバを再起動します。

### 状況：製品モジュールやライセンスを追加したが、適切に動作していない。

- Vectorworks 製品の起動時、ログイン設定ダイアログボックス内でモジュールダイアログを表示させ、モジュール条件を変更して、Renderworks モジュール、Architect モジュール、Landmark モジュール、Spotlight モジュール、Designer モジュールなどのモジュールを有効にしてください。
- 複数の異なるラインナップのプログラムがある場合は、クライアントマシン上で、ソフトウェアが Vectorworks サイトプロテクションネットワーク版の正しいインストーラを使用してインストールされたことを確認してください。
- サーバ上の意図しない ISV オプションでユーザに制限がかかっていないことを確認してください。

- 後でモジュールを追加した場合は、ライセンスファイルが更新されたことを確認してください。5053 以外のポート番号を使用している場合は、更新後のライセンスファイルに正しいポート番号が記載されていることを確認してください。

### 状況：新しいクライアントライセンスが使用できない、またはライセンスカウントに含まれていない。

- ライセンスファイルは更新されていますか？
- 5053 以外のポート番号を使用している場合は、更新後のライセンスファイルに正しいポート番号が記載されていることを確認してください。

### 状況：ファイアウォールを越えてライセンスを適用したい。

ファイアウォールを越えてライセンスを適用したい場合は、ファイアウォールに RLM および ISV サーバのポート番号を設定して、ポート越しにリクエストを通すようにします。

RLM サーバは常に既知のポート番号を使用しており、この番号はライセンスファイル内の SERVER または HOST 行で指定されています。

通常、RLM はすべての ISV サーバを、起動前には不明なダイナミックポート番号で起動しますが、RLM が ISV サーバに固定のポート番号を割り当てるよう設定することは可能です。そのためには、ISV 行で ISV サーバのポート番号を指定します。ポート番号は ISV 行で 5 つ目のパラメータです。

ISV\_ismv 名 \_ismv バイナリパス名 \_オプションファイル名 \_ポート番号

ポート番号を指定するには、この ISV サーバのオプションファイルを指定しなければなりません。

ポート番号を指定したら、ファイアウォールに (RLM 用の) SERVER 行のポート番号と ISV 行のポート番号への接続を許可させます。

ポート番号を有効にするには、RLM を再起動します (ウェブインターフェースまたは rlmreread を使用して ISV サーバを再起動しても、RLM は再起動されません)。

ISV 行にあるオプションの「port=xxx」パラメータで、ISV サーバのポート番号を指定することもできます。

ISV\_ismv 名 \_binary=ismv バイナリパス名 \_port= ポート番号

または

ISV\_ismv 名 \_ismv バイナリパス名 \_port= ポート番号

これらの方法を使用した場合は、ISV オプションファイルを指定する必要はありません。

~~~~~  
エラーメッセージ一覧

エラーメッセージ一覧

ライセンス管理ソフトウェアのエラー

実行中のコマンドウインドウやデバッグログに表示されます。

メッセージ：Could not access the license

ライセンスファイルが見つからないか、または破損しています。ライセンスファイルがあることを確認してください。必要に応じて、ライセンスファイルをパッケージからコピーし直してください。

メッセージ：Error in license count or hostid

不正なライセンスファイルがあります。残りのライセンスは正しく読み込まれています。ライセンスファイルをパッケージからコピーし直してください。

メッセージ：No license file for this host

- ライセンスファイルで、ホスト名が正しくない、または不正です。
- 複数のライセンスファイルがあり、そのすべてで不正なホスト名が設定されています。

ライセンスファイルが複数使われている場合は、ホスト名が共に追加されます。ホスト名のうち1つにエラーがあるが他のホスト名が有効な場合は、有効なホスト名がすべてのライセンスに使われます。

このエラーを回避するには、すべてのライセンスファイルで localhost を使用してください。

メッセージ : License module list displays rlm_roam instead of modules

dongルで指定されているライセンスのみを読み込むことができます。 dongルを接続し直し、ライトが点灯していることを確認してください。ライトが点灯していない場合は、別の USB ポートに挿入するか、サーバを再起動してみてください。可能であれば、dongルが別のマシンで動作するかどうかを確認してください。

メッセージ : Duplicate license

サーバ上でライセンスが重複して見つかっています。重複しているライセンスを削除してください。

メッセージ : The following license has errors

サーバがエラーの種類を特定しようとしています。影響を受けているライセンスは読み込まれたままです。致命的なエラーがあるライセンスは読み込めません。最も可能性が高いのは、ISV、製品、またはバージョンに関するエラーです。ライセンス管理ソフトウェアを再インストールして、問題のあるライセンスを置き換えてください。

メッセージ : Port nnnn in use

サーバマシンで、すでに他のアプリケーションなどがデフォルトのポート番号を使用しています。あるいは、ライセンス管理ソフトウェアとサービスが同時に起動されたか、またはポート番号が入力されていません。

通常、ポート番号が不正または不明であるか、ポートがビジー状態の場合は、デフォルトのポート番号が使われます。ただし、デフォルトのポート番号がすでに使用中の場合、サーバはポートが空くまで待機します。

メッセージ : Cannot create log file

サーバマシン上のログファイルへの書き込み中に、問題が発生しました。

- ログファイルはオプションです。デフォルトでは、すべてのエラーはコマンドウインドウに表示されます。
- サーバマシンの動作状態をチェックし、管理者権限でログインしているかを確認してください。

メッセージ : Cannot set server lock; lockfile problems / Port 5053 in use; waiting / (rlm) Cannot bind Web Server port 5054

これらのメッセージはほぼ必ず、複数のライセンス管理ソフトウェアが同一マシン上にインストールされており、他のプログラムがすでに実行中であることを示しています。セキュリティ上の理由から、複数のライセンス管理ソフトウェアを同一マシン上で実行することはできません。また、ライセンス管理ソフトウェアとサービスを同時に起動することもできません。

RLM サーバまたは ISV サーバのコピーが他に実行中でないかシステムをチェックして、プロセスを停止してください。その後、RLM サーバを再起動します。

他に考えられる問題は、別のプログラムがポートを使用している場合です。「netstat」コマンドを使用して、別のプログラムがこのポートを使用していないか確認してください。

Hosts ファイルにマシン名と IP アドレスが含まれていない場合は、ポート 5054 を使用しているプログラムがなくても、一部のシステムではこのエラーが出ます。Hosts ファイルに hostname と IP アドレスを追加すると問題は解決します。

Vectorworks クライアント側のエラー

メッセージ : サーバとの接続が切断されました !

再試行をクリックして通信の再接続を試みてください。

再接続ができなかった場合、以下を確認してください。

- ネットワークが正しく動作しているか確認してください。
- サーバマシンの動作状態を確認してください。
- ライセンス管理ソフトウェアの動作状態を確認してください。

- ライセンス管理ソフトウェアを再起動すると、クライアントとの接続が切れます。接続を「再試行」するか、クライアントを再起動してください。
- 接続されているクライアントをライセンス管理ソフトウェア側から **Remove** すると、クライアントの接続が切れます。管理者にお問い合わせください。

メッセージ：サーバに接続できません。

- ネットワークが正しく動作しているか確認してください。
- サーバマシンの動作状態を確認してください。
- ライセンス管理ソフトウェアの動作状態を確認してください。
- ログイン設定ダイアログボックスで、プライマリサーバがユーザ名やホスト名になっている場合は、IP アドレスに変更してください。
- ログイン設定で、サーバマシンの IP アドレスとポート番号が正しく設定されているかを確認してください。
- ログイン設定で、**サーバを自動検出**にチェックが入っている場合はチェックを外し、サーバマシンの IP アドレスを手入力してください。
- サーバの ISV オプションで、IP アドレスに基づく制限が設定されていないかを確認してください。

メッセージ：次のモジュールの持ち出し有効期限を __ 日間に設定することはできません。

許容持ち出し期間が、要求した持ち出し期間より短く設定されています。ソフトウェアの持ち出し期間を短くしてください。

メッセージ：次のモジュールの持ち出しは無効です。

ユーザが要求したモジュールを持ち出すことは許可されていません。許可されているモジュールのみを持ち出してください。

状態：Vectorworks プログラムが反応しない。

ソフトウェアを終了してください。サーバのデバッグログに「IN (client exit)」行が追加され、ライセンスが自動的にサーバに返却されます。

サーバとクライアントの通信が一定時間ないと、ライセンスファイルが自動的にサーバに返却されます。

~~~~~  
トラブルシューティング





# Vectorworks 2017 サイトプロテクションネットワーク版 リファレンスガイド

---

平成28年11月30日 初版発行

著作

Vectorworks, Inc./A&A Co.,Ltd.

製作・発行

エーアンドエー株式会社

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-3-15

---

禁転載 / 不許複製

A&A, Co.Ltd. all rights reserved printed in japan 161130KY